

健康寿命延伸のための「社会健康医学」推進委員会

拠点設置検討部会（第2回）議事次第

日時：平成30年9月7日（金）

10:30～12:00

場所：グランディエールブクトーカイ
4階ワルツ

- 開会
- 議題
 - 1 大学院大学の設置検討に向けた需要調査（速報値）について
 - 2 大学院大学の設置に係る基本構想（素案）について
 - 3 その他
- 閉会

資料

議事次第

- 資料1 健康寿命延伸のための「社会健康医学」推進委員会拠点設置検討部会委員名簿
- 資料2 大学院大学の設置検討に向けた需要調査
- 資料3 大学院大学の設置に係る基本構想（素案）
- 資料4 社会健康医学系大学院大学の基本構想検討資料
（基本理念・養成する人材像・ポリシー等）

参考資料 社会健康医学シンポジウム開催案内

健康寿命延伸のための「社会健康医学」推進委員会

拠点設置検討部会委員名簿

(敬称略、50音順)

氏名	所属・役職等	備考
みやち よしき 宮地 良樹	静岡県立総合病院参与兼リハビリセンター長 (京都大学名誉教授)	部会長
きとう ひろし 鬼頭 宏	静岡県立大学学長	
つるた けんいち 鶴田 憲一	全国衛生部長会会長(静岡県理事(医療衛生担当))	
とくなが こうじ 徳永 宏司	静岡県医師会副会長	
なかやま たけお 中山 健夫	京都大学大学院医学研究科副研究科長 社会健康医学系専攻長・健康情報学分野教授	
まつだ ふみひこ 松田 文彦	京都大学大学院医学研究科 附属ゲノム医学センター センター長・教授	
みやた ひろあき 宮田 裕章	慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室教授 東京大学大学院医学系研究科医療品質評価学講座特任教授 国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 国際保健システム・イノベーション研究科研究科長	
もちづき りつこ 望月 律子	常葉大学健康科学部看護学科在宅看護学特任教授	

計 8 名

大学院大学の設置検討に向けた需要調査の実施状況

1 調査スケジュール

- 8/9～8/10 大学、介護事業所、市町へ送付（8/29〆切）
- 8/14～8/23 医師会等の関係団体へ事前説明
- 8/24～ 病院、医学修学資金利用者、健診機関へ送付（9/12〆切）

2 第2回拠点設置検討部会（9/7開催）での報告

- 部会開催までに回収、集計した速報値を報告

3 第2回推進委員会（10/23）での報告

- 需要調査の最終結果を報告

大学院大学の設置検討に向けた需要調査

1 調査目的

大学院大学の設置に向け、入学者の受け入れ、教育課程、学位の授与に関する方針等の検討を行う基礎資料とするために実施する。

2 調査対象

県内の医療機関に勤務する医師、看護師、薬剤師等

県内の介護事業所に勤務する看護師、栄養士、介護福祉士等

県内大学院の教員、院生

市町で健康増進を担当する保健師、栄養士

県内企業の健康保険組合や健診機関における健診データ分析担当者や保健指導担当者等

3 実施時期

平成30年8月 調査対象機関へ説明、調査票を送付

9月 集計、分析

4 調査項目

大学院大学への進学希望とその理由

学びたい教育内容、希望する授業形態

大学院大学修了生を採用する意思

大学院大学修了生に求める能力 など

大学院大学への進学意識及び大学院大学修了者の人材需要に関する
アンケート調査 調査対象リスト(案)

区分	調査団体	対象者 (上段：進学意識、下段：人材需要)	対象数
病院	地域において中核的な役割を担う病院	25 病院 × 40 人 (医師・歯科医師 25、薬剤師 5、看護師 5、その他 5) = 1,000 人 40 歳未満で MPH の学位を保有していない者を対象とする	1,000 人
		25 病院	25 団体
医師	医学修学研修資金利用者	医学修学研修資金貸与者 (全国) 166 人 初期臨床研修修了後、県内で返済免除のための勤務中の者及び猶予制度を活用し、返済免除のための勤務対象施設以外の医療機関で勤務中の者を対象とする	166 人
大学	浜松医科大学 静岡県立大学 常葉大学 聖隷クリストファー大学	大学教員 4 大学 × 10 人 = 40 人 大学院生 4 大学 × 10 人 = 40 人	80 人
		4 大学	4 団体
介護事業所	人材育成に積極的に取り組んでいる介護事業所	5 事業所 × 10 人 = 50 人	50 人
		5 事業所	5 団体
行政機関	市町の健康増進担当課	保健師、栄養士 35 市町 × 2 職種 × 3 人 = 210 人 40 歳未満の学士保有者を対象とする	210 人
		35 市町	35 団体
企業の健康保険組合	健康保険組合連合会静岡連合会 (健保連：大企業) 全国健康保険協会静岡支部 (協会けんぽ：中小企業)	健保連 42 社 × 2 人 (データ分析担当、保健指導担当など) + 協会けんぽ 5 人	89 人
		健保連 42 社 + 協会けんぽ	42 団体
健診機関	健診機関	15 機関 × 2 人 = 30 人	30 人
		15 機関	15 団体
合 計			1,625 人
			126 団体

社会健康医学系大学院大学（仮称）修士課程の概要

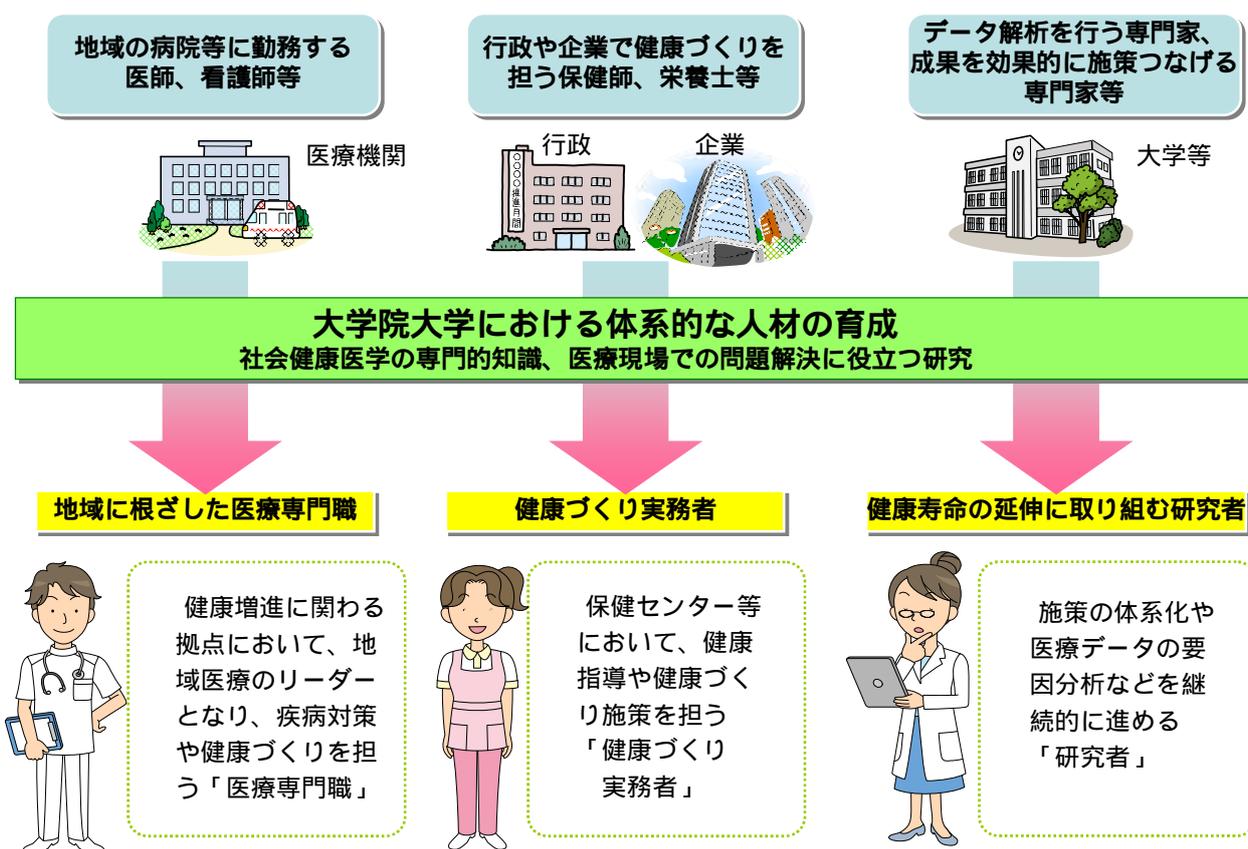
静岡県では、県民の健康寿命の更なる延伸を図るため、県内の医療・介護現場の第一線で活躍している医師、看護師などの専門職等を対象に、現在の職場で働きながら社会健康医学（ ）の専門的知識を学び、また、医療現場での問題解決に役立つ研究に従事した上で、社会健康医学修士（ ）の学位を取得できる大学院大学の設置を検討しています（標準修業年限は2年）。

社会健康医学とは、従来の公衆衛生学を発展させた、病気を予防する、または病気にならないような地域・環境を研究する総合的かつ新しい学問分野です。

社会健康医学修士は、国際的にも通用する Master of Public Health（MPH：一般的には、公衆衛生学修士と訳される）と同じ学位であり、国内では京都大学で授与しています。

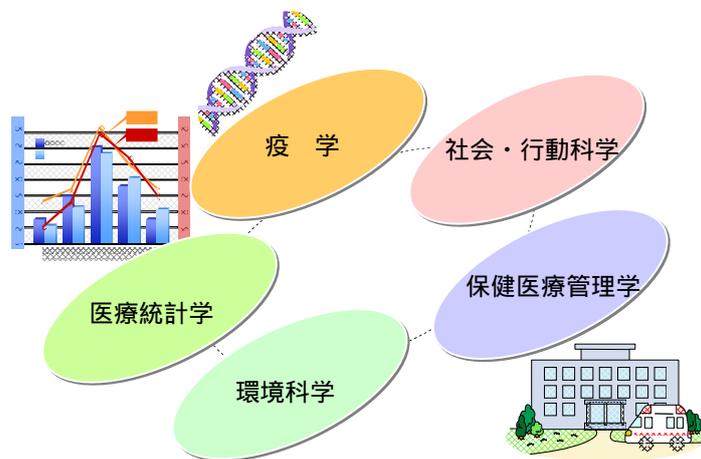
【設置構想中】掲載内容は予定であり、変更する場合があります

<養成する人材>



< 教育課程の特色 >

公衆衛生学の国際標準である「疫学」、「医療統計学」、「環境科学」、「保健医療管理学」、「社会・行動科学」の5つの学問領域を中心としたカリキュラム構成

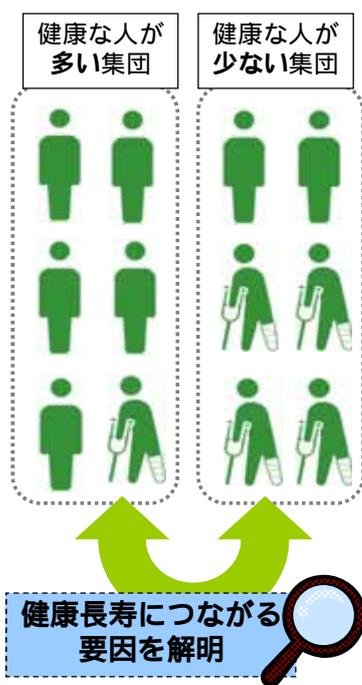


静岡県内の医療情報を活用した、医療現場に還元できる疾病予防、健康増進のための研究を実施

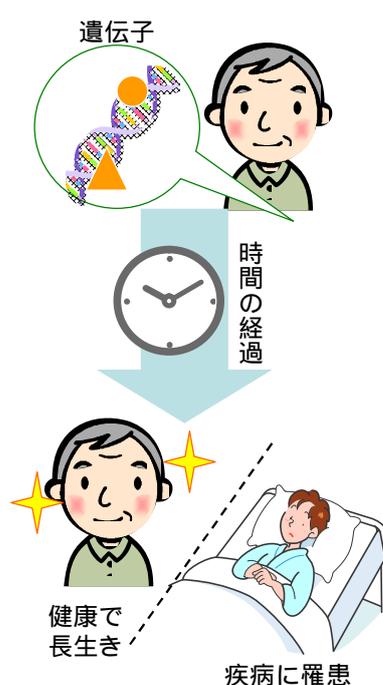
医療ビッグデータの活用



疫学研究



ゲノムコホート研究



どんな遺伝要因・環境要因を持つ人が健康長寿？

大学院大学への進学意向に関するアンケート調査

- ・静岡県では、県内の医療・介護現場の第一線で活躍している医師、看護師などの専門職等を対象とした大学院大学の設置を検討しています。
- ・このアンケート調査は、皆さんの今後の大学院大学への進学意向等についてお伺いし、設置計画の基礎資料とするものです。ご協力をお願いします。
- ・別紙の「社会健康医学系大学院大学（仮称）修士課程の概要」をお読みいただき、以下の質問にお答えください。
- ・回答は、あてはまる選択肢の番号に をつけてください。
- ・その他や自由回答については、() 内に記載してください。
- ・このアンケート調査は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
- ・平成30年 月 日()までに、本調査票のみを、同封した返信用封筒にてお送りください。

あなたに関することについて、お答えください。

問1 あなたの年齢について、おたずねします（調査記入時点）。

- 1 . 20 歳代 2 . 30 歳代 3 . 40 歳代 4 . 50 歳代 5 . 60 歳以上

問2 あなたの性別について、おたずねします。

- 1 . 男性 2 . 女性

問3 あなたのお住まい（現住所）は、どこですか。

- 1 . 下田市 2 . 東伊豆町 3 . 河津町 4 . 南伊豆町 5 . 松崎町
6 . 西伊豆町 7 . 沼津市 8 . 熱海市 9 . 三島市 10 . 富士宮市
11 . 伊東市 12 . 富士市 13 . 御殿場市 14 . 裾野市 15 . 伊豆市
16 . 伊豆の国市 17 . 函南町 18 . 清水町 19 . 長泉町 20 . 小山町
21 . 静岡市 22 . 島田市 23 . 焼津市 24 . 藤枝市 25 . 牧之原市
26 . 吉田町 27 . 川根本町 28 . 磐田市 29 . 掛川市 30 . 袋井市
31 . 御前崎市 32 . 菊川市 33 . 森町 34 . 浜松市 35 . 湖西市
36 . 県外（都道府県名： ）

問4 あなたの職業（職種）について、おたずねします。主なもの1つに をつけてください。

- | | | | |
|-----------|---------------------|-------------|-------------------------------|
| 1. 医師 | 2. 歯科医師 | 3. 薬剤師 | 4. 看護師・助産師 |
| 5. 保健師 | 6. 栄養士 | 7. 臨床検査技師 | 8. 診療放射線技師 |
| 9. 臨床工学技士 | 10. 治験コーディネーター（CRC） | | |
| 11. 理学療法士 | 12. 作業療法士 | 13. 言語聴覚士 | 14. 医療事務職 |
| 15. 介護福祉士 | 16. 社会福祉士 | 17. 精神保健福祉士 | 18. 介護職員 |
| 19. 大学教員 | 20. 行政職 | 21. 大学院生 | 22. その他（ ） |

問5 あなたの最終学歴について、おたずねします。

- | | | |
|--------------|--------------|------------------------------|
| 1. 大学院（博士課程） | 2. 大学院（修士課程） | 3. 大学 |
| 4. 短期大学 | 5. 専門学校 | 6. その他（ ） |

静岡県が設置を検討している社会健康医学系大学院大学(仮称)について、
概要資料をご覧いただいた上でお答えください。

問6 あなたは、静岡県が設置を検討している社会健康医学系大学院大学(仮称)について、興味がありますか。

1. 大変興味がある 2. 多少興味がある
3. あまり興味がない 4. 全く興味、関心がない 5. わからない

1、2を選ばれた方は問7へお進みください。
3、4、5を選ばれた方は問11へお進みください。

問7 問6で「大変興味がある」「多少興味がある」と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。あてはまるものすべてにをつけてください。

1. 医療や介護等の現場で研究してみたい課題があるから
2. 自ら研究計画を立てる能力を身につけたいから
3. 医療・介護などのデータを活用してみたいから
4. 大学院大学で学ぶ専門知識を現場に生かしたいから
5. 自分自身のキャリアアップのために社会健康医学修士(MPH)の学位を取得したいから
6. 健康寿命の延伸に興味、関心があるから
7. 将来、研究職に就きたいから
8. その他()

問8 静岡県が設置を検討している社会健康医学系大学院大学(仮称)において、どのような授業科目分野に興味がありますか。あてはまるものすべてにをつけてください。

1. 疫学(集団を対象として健康に影響を与える要因を学ぶ)
2. 医療統計学(医療関係データの収集、解析方法を学ぶ)
3. 環境科学(環境が健康に与える影響を学ぶ)
4. 保健医療管理学(健康政策のマネジメント手法を学ぶ)
5. 社会・行動科学(健康に関する行動変容を学ぶ)
6. ゲノム疫学(健康に関係する遺伝因子を学ぶ)
7. 健康コミュニケーション学
(健康に関する情報を分かりやすく伝える手法を学ぶ)
8. その他()

大学院大学修了者の人材需要に関するアンケート調査

- ・静岡県では、県内の医療・介護現場の第一線で活躍している医師、看護師などの専門職等を対象とした大学院大学の設置を検討しています。
- ・このアンケート調査は、大学院大学の設置計画の基礎とするため、貴団体（貴院／貴学／貴社）の採用意向についてお伺いするものです。ご協力をお願いします。
- ・別紙の「社会健康医学系大学院大学（仮称）修士課程の概要」をお読みいただき、以下の質問にお答えください。
- ・回答は、あてはまる選択肢の番号に をつけてください。
- ・その他や自由回答については、() 内に記載してください。
- ・このアンケート調査は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
- ・平成30年 月 日()までに、本調査票のみを、同封した返信用封筒にてお送りください。

貴団体（貴院、貴学、貴社）に関することについて、お答えください。

- 問1 本部の所在地は、2次保健医療圏のうち、どの医療圏に属しますか。
- 1．賀 茂 （下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町）
 - 2．熱海伊東（熱海市、伊東市）
 - 3．駿東田方（沼津市、三島市、御殿場市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、
函南町、清水町、長泉町、小山町）
 - 4．富 士 （富士宮市、富士市）
 - 5．静 岡 （静岡市）
 - 6．志太榛原（島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町）
 - 7．中東遠 （磐田市、掛川市、袋井市、御前崎市、菊川市、森町）
 - 8．西 部 （浜松市、湖西市）
 - 9．県 外 （都道府県名： ）
- 問2 業種についてお聞きします。
- 1．病院（大学附属病院も含む）
 - 2．大学
 - 3．介護サービス事業所
 - 4．行政機関
 - 5．企業の健康保険組合
 - 6．健診機関
 - 7．その他（ ）

静岡県が設置を検討している社会健康医学系大学院大学(仮称)について、
概要資料をご覧いただいた上でお答えください。

問3 静岡県が設置を検討している社会健康医学系大学院大学(仮称)の貴団体にとっての必要性について、どのようにお考えになりますか。

1. 高い必要性を感じる
2. ある程度の必要性を感じる
3. あまり必要性を感じない
4. 必要性はない
5. わからない
6. その他()

問4 静岡県が設置を検討している社会健康医学系大学院大学(仮称)を修了した人材に、どのような能力を期待しますか。あてはまるものすべてに
をつけてください。

1. 自ら研究課題を見つけ、研究計画を立てる能力
2. 医療・介護などのデータを分析できる能力
3. 健康政策や研究プロジェクトのマネジメント力
4. 医療・介護の現場において指導的役割を担う能力
5. 患者・入所者に対して効果的に介入できるコミュニケーション能力
6. 遺伝・ゲノムに関する専門知識
7. その他()

問5 静岡県が設置を検討している社会健康医学系大学院大学(仮称)の修了生を採用したいと思いませんか。

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. あまり採用したくない
4. 採用しない
5. わからない

問6 仕事を続けながら学ぶことができる環境が整った場合、静岡県が設置を検討している社会健康医学系大学院大学(仮称)に貴団体の職員(大学の場合は教員)の入学を希望しますか。

1. 入学させたい
2. 入学させることを検討したい
3. あまり入学させたくない
4. 入学を希望しない
5. わからない

問7 貴団体では、職員（大学の場合は教員）側から、静岡県が設置を検討している社会健康医学系大学院大学（仮称）で学びたいと申し入れがあった場合、入学をすすめますか。

- 1．積極的にすすめる
- 2．状況によってはすすめる
- 3．あまりすすめたくない
- 4．すすめない
- 5．わからない

問8 静岡県が設置を検討している社会健康医学系大学院大学（仮称）について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。



ご協力ありがとうございました。

需要調査の速報値（概要）

1 進学意向調査

（1）回答者

469人（回収率28.9%）

うち、医師92人、保健師125人、栄養士58人

（2）大学院大学への興味の有無

大変興味がある51人＋多少興味がある220人＝271人（57.8%）

（3）興味がある理由 複数回答あり

健康寿命の延伸に興味、関心がある124人

専門知識を現場に生かしたい119人

医療・介護などのデータを活用してみたい102人

（4）興味のある授業科目分野 複数回答あり

公衆衛生の5領域11.9%～16.5%

健康コミュニケーション学19.2%

（5）授業の履修に必要な配慮 複数回答あり

土日を中心としたカリキュラム161人

講義のビデオ視聴152人

平日夜間のカリキュラム143人

（6）大学院大学への進学意向

入学したい23人＋機会があれば入学したい95人

＋将来必要を感じたら入学を考える111人＝229人（85.8%）

2 人材需要調査

(1) 回答者

83 団体 (回収率 65.9%)

うち、病院 5、市町 32、健康保険組合 34

(2) 大学院大学の必要性

高い必要性を感じる 8 団体

+ ある程度の必要性を感じる 54 団体 = 62 団体 (74.7%)

(3) 大学院大学の修了生に期待する能力 複数回答あり

医療・介護などのデータを分析する能力 57 団体

健康政策や研究プロジェクトのマネジメント力 52 団体

医療・介護現場で指導的役割を担う能力 47 団体

(4) 大学院大学の修了生を採用する意思

採用したい 11 団体 + 採用を検討したい 32 団体 = 43 団体 (51.8%)

(5) 団体職員を大学院大学へ入学させる意思

入学させたい 3 団体

+ 入学させることを検討したい 27 団体 = 30 団体 (36.1%)

(6) 団体職員の入学希望に対する入学勧奨の意思

積極的にすすめる 2 団体

+ 状況によってはすすめる 53 団体 = 55 団体 (66.3%)

統計

		年齢	性別	現住所	職業	最終学歴	興味の有無	環境が整った場合 入学したいと考 えるか
度数	有効数	469	469	469	464	467	469	267
	欠損値	0	0	0	5	2	0	202

度数テーブル

年齢

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	20歳代	140	29.9	29.9	29.9
	30歳代	190	40.5	40.5	70.4
	40歳代	68	14.5	14.5	84.9
	50歳代	55	11.7	11.7	96.6
	60歳以上	16	3.4	3.4	100.0
	合計	469	100.0	100.0	

性別

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	男性	155	33.0	33.0	33.0
	女性	314	67.0	67.0	100.0
	合計	469	100.0	100.0	

現住所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	下田市	4	.9	.9	.9
	東伊豆町	3	.6	.6	1.5
	河津町	3	.6	.6	2.1
	南伊豆町	4	.9	.9	3.0
	松崎町	2	.4	.4	3.4
	西伊豆町	3	.6	.6	4.1
	沼津市	18	3.8	3.8	7.9
	熱海市	4	.9	.9	8.7
	三島市	26	5.5	5.5	14.3
	富士宮市	7	1.5	1.5	15.8
	伊東市	3	.6	.6	16.4
	富士市	9	1.9	1.9	18.3
	御殿場市	8	1.7	1.7	20.0
	裾野市	4	.9	.9	20.9
	伊豆市	3	.6	.6	21.5
	伊豆の国市	7	1.5	1.5	23.0
	函南町	3	.6	.6	23.7
	清水町	7	1.5	1.5	25.2
	長泉町	7	1.5	1.5	26.7
	小山町	4	.9	.9	27.5
	静岡市	105	22.4	22.4	49.9
	島田市	18	3.8	3.8	53.7
	焼津市	12	2.6	2.6	56.3
	藤枝市	23	4.9	4.9	61.2
	牧之原市	5	1.1	1.1	62.3
	吉田町	3	.6	.6	62.9
	川根本町	1	.2	.2	63.1
	磐田市	9	1.9	1.9	65.0
	掛川市	14	3.0	3.0	68.0
	袋井市	7	1.5	1.5	69.5
	御前崎市	4	.9	.9	70.4
	菊川市	8	1.7	1.7	72.1
	森町	1	.2	.2	72.3
	浜松市	110	23.5	23.5	95.7
	湖西市	6	1.3	1.3	97.0
	県外	14	3.0	3.0	100.0
	合計	469	100.0	100.0	

職業

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	医師	92	19.6	19.8	19.8
	薬剤師	31	6.6	6.7	26.5
	看護師・助産師	31	6.6	6.7	33.2
	保健師	125	26.7	26.9	60.1
	栄養士	58	12.4	12.5	72.6
	臨床検査技師	15	3.2	3.2	75.9
	診療放射線技師	8	1.7	1.7	77.6
	臨床工学技士	4	.9	.9	78.4
	理学療法士	5	1.1	1.1	79.5
	作業療法士	3	.6	.6	80.2
	言語聴覚士	3	.6	.6	80.8
	医療事務職	4	.9	.9	81.7
	介護福祉士	17	3.6	3.7	85.3
	社会福祉士	5	1.1	1.1	86.4
	大学教員	17	3.6	3.7	90.1
	行政職	1	.2	.2	90.3
	大学院生	8	1.7	1.7	92.0
	その他	37	7.9	8.0	100.0
	合計	464	98.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	1.1		
合計		469	100.0		

最終学歴

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	大学院(博士課程)	18	3.8	3.9	3.9
	大学院(修士課程)	28	6.0	6.0	9.9
	大学	305	65.0	65.3	75.2
	短期大学	41	8.7	8.8	83.9
	専門学校	52	11.1	11.1	95.1
	その他	23	4.9	4.9	100.0
	合計	467	99.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	.4		
合計		469	100.0		

興味の有無

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	大変興味がある	51	10.9	10.9	10.9
	多少興味がある	220	46.9	46.9	57.8
	あまり興味がない	123	26.2	26.2	84.0
	全く興味、関心がない	42	9.0	9.0	93.0
	わからない	33	7.0	7.0	100.0
	合計	469	100.0	100.0	

環境が整った場合入学したいと考えるか

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	入学したい	23	4.9	8.6	8.6
	機会があれば入学したい	95	20.3	35.6	44.2
	将来必要を感じたら入学を考える	111	23.7	41.6	85.8
	入学を希望しない	15	3.2	5.6	91.4
	わからない	23	4.9	8.6	100.0
	合計	267	56.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	202	43.1		
合計		469	100.0		

ケースの要約

	ケース					
	有効数		欠損		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
\$Q7 ^a	269	57.4%	200	42.6%	469	100.0%
\$Q8 ^a	266	56.7%	203	43.3%	469	100.0%
\$Q9 ^a	269	57.4%	200	42.6%	469	100.0%

a. 2分グループを値1で集計します。

\$Q7 度数分布表

		応答数		ケースのパーセント
		度数	パーセント	
\$Q7 ^a	現場で研究してみたい課題があるから	47	8.4%	17.5%
	自ら研究計画を立てる能力を身につける	56	10.0%	20.8%
	医療・介護などのデータを活用してみたいから	102	18.3%	37.9%
	専門知識を現場に生かしたいから	119	21.3%	44.2%
	キャリアアップのために学位を取得したいから	89	15.9%	33.1%
	健康寿命の延伸に興味、関心があるから	124	22.2%	46.1%
	将来、研究職に就きたいから	7	1.3%	2.6%
	その他Q7	14	2.5%	5.2%
合計		558	100.0%	207.4%

a. 2分グループを値1で集計します。

\$Q8 度数分布表

		応答数		ケースのパーセント
		度数	パーセント	
\$Q8 ^a	疫学	131	14.0%	49.2%
	医療統計学	153	16.3%	57.5%
	環境科学	112	11.9%	42.1%
	保健医療管理学	134	14.3%	50.4%
	社会・行動科学	155	16.5%	58.3%
	ゲノム疫学	69	7.4%	25.9%
	健康コミュニケーション学	180	19.2%	67.7%
	その他Q8	4	.4%	1.5%
合計		938	100.0%	352.6%

a. 2分グループを値1で集計します。

\$Q9 度数分布表

		応答数		ケースのパーセント
		度数	パーセント	
\$Q9 ^a	平日夜間のカリキュラム	143	19.2%	53.2%
	土日を中心としたカリキュラム	161	21.6%	59.9%
	講義のビデオ視聴	152	20.4%	56.5%
	一定期間の集中講義	125	16.8%	46.5%
	修業年限2年未満の短期履修	92	12.3%	34.2%
	修業年限2年を超える長期履修	52	7.0%	19.3%
	その他Q9	20	2.7%	7.4%
合計		745	100.0%	277.0%

a. 2分グループを値1で集計します。

ケースの要約

	ケース				合計	
	有効数		欠損		度数	パーセント
	度数	パーセント	度数	パーセント		
興味の有無*職業	464	98.9%	5	1.1%	469	100.0%

興味の有無*職業 クロス表

		職業																	合計	
		医師	薬剤師	看護師・助産師	保健師	栄養士	臨床検査技師	診療放射線技師	臨床工学技士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	医療事務職	介護福祉士	社会福祉士	大学教員	行政職	大学院生		その他
興味の有無	大変興味がある	度数	8	3	6	17	6	3	0	1	0	0	0	0	0	4	0	1	1	51
	職業の%		8.7%	9.7%	19.4%	13.6%	10.3%	20.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	23.5%	0.0%	12.5%	2.7%
	多少興味がある	度数	23	10	18	78	32	5	2	1	4	1	2	0	9	4	11	1	5	12
	職業の%		25.0%	32.3%	58.1%	62.4%	55.2%	33.3%	25.0%	25.0%	80.0%	33.3%	66.7%	0.0%	52.9%	80.0%	64.7%	100.0%	62.5%	32.4%
	あまり興味がない	度数	32	11	6	24	15	4	4	2	0	2	1	3	4	0	1	0	2	10
	職業の%		34.8%	35.5%	19.4%	19.2%	25.9%	26.7%	50.0%	50.0%	0.0%	66.7%	33.3%	75.0%	23.5%	0.0%	5.9%	0.0%	25.0%	27.0%
	全く興味、関心がない	度数	20	3	1	3	2	2	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	7
	職業の%		21.7%	9.7%	3.2%	2.4%	3.4%	13.3%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	25.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	18.9%
	わからない	度数	9	4	0	3	3	1	2	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	7
	職業の%		9.8%	12.9%	0.0%	2.4%	5.2%	6.7%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	20.0%	5.9%	0.0%	0.0%	18.9%
合計	度数	92	31	31	125	58	15	8	4	5	3	3	4	17	5	17	1	8	37	464

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。

\$Q7*職業 クロス表

		職業																	合計	
		医師	薬剤師	看護師・助産師	保健師	栄養士	臨床検査技師	診療放射線技師	臨床工学技士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	介護福祉士	社会福祉士	大学教員	行政職	大学院生	その他		
\$Q7*	現場で研究してみたい課題があるから	度数	10	4	2	14	5	1	0	1	1	0	1	1	2	4	0	0	0	46
	職業の%		32.3%	30.8%	8.3%	14.7%	13.2%	12.5%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	50.0%	10.0%	50.0%	30.8%	0.0%	0.0%	0.0%	
	自ら研究計画を立てる能力を身につける	度数	11	3	2	24	7	3	0	2	1	1	0	0	0	1	0	1	1	55
	職業の%		35.5%	23.1%	8.3%	25.3%	18.4%	37.5%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	16.7%	7.7%	
	医療・介護などのデータを活用してみたいから	度数	12	7	7	43	8	4	1	1	1	0	0	3	2	3	0	3	6	101
	職業の%		38.7%	53.8%	29.2%	45.3%	21.1%	50.0%	50.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	30.0%	50.0%	23.1%	0.0%	50.0%	46.2%	
	専門知識を現場に生かしたいから	度数	9	6	13	51	23	5	1	0	2	1	1	4	0	0	0	1	2	119
	職業の%		29.0%	46.2%	54.2%	53.7%	60.5%	62.5%	50.0%	0.0%	50.0%	100.0%	50.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	15.4%	
	キャリアアップのために学位を取得したいから	度数	16	3	5	31	17	4	1	1	1	0	0	2	1	3	0	2	1	88
	職業の%		51.6%	23.1%	20.8%	32.6%	44.7%	50.0%	50.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	20.0%	25.0%	23.1%	0.0%	33.3%	7.7%	
	健康寿命の延伸に興味、関心があるから	度数	9	1	14	47	22	3	0	1	2	0	0	4	2	5	1	3	9	123
	職業の%		29.0%	7.7%	58.3%	49.5%	57.9%	37.5%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	40.0%	50.0%	38.5%	100.0%	50.0%	69.2%	
	将来、研究職に就きたいから	度数	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	7
	職業の%		0.0%	0.0%	4.2%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	7.7%	
	その他Q7	度数	2	0	1	3	2	0	0	1	0	0	1	1	0	2	0	0	1	14
	職業の%		6.5%	0.0%	4.2%	3.2%	5.3%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	10.0%	0.0%	15.4%	0.0%	0.0%	7.7%	
合計	度数	31	13	24	95	38	8	2	2	4	1	2	10	4	13	1	6	13	267	

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。

a. 2 分グループを値 1 で集計します。

\$Q8*職業 クロス表

		職業																	合計	
		医師	薬剤師	看護師・助産師	保健師	栄養士	臨床検査技師	診療放射線技師	臨床工学技士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	介護福祉士	社会福祉士	大学教員	行政職	大学院生	その他		
\$Q8*	疫学	度数	16	7	7	49	25	3	1	0	2	0	1	3	1	7	0	4	3	129
	職業の%		53.3%	53.8%	31.8%	51.6%	67.6%	37.5%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	30.0%	25.0%	46.7%	0.0%	66.7%	25.0%	
	医療統計学	度数	24	9	10	59	17	4	1	1	2	1	0	3	10	0	4	6	152	
	職業の%		80.0%	69.2%	45.5%	62.1%	45.9%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	75.0%	66.7%	0.0%	66.7%	50.0%	
	環境科学	度数	14	3	8	43	11	4	1	0	2	1	7	2	7	1	1	5	111	
	職業の%		46.7%	23.1%	36.4%	45.3%	29.7%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	100.0%	50.0%	70.0%	50.0%	46.7%	100.0%	16.7%	41.7%	
	保健医療管理学	度数	11	3	12	57	20	4	1	0	1	0	6	2	5	1	2	7	132	
	職業の%		36.7%	23.1%	54.5%	60.0%	54.1%	50.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	60.0%	50.0%	33.3%	100.0%	33.3%	58.3%		
	社会・行動科学	度数	11	2	11	76	25	2	1	1	1	0	6	2	8	0	1	6	154	
	職業の%		36.7%	15.4%	50.0%	80.0%	67.6%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	50.0%	60.0%	50.0%	53.3%	0.0%	16.7%	50.0%		
	ゲノム疫学	度数	14	5	6	17	11	4	0	0	0	0	0	1	4	0	6	1	69	
	職業の%		46.7%	38.5%	27.3%	17.9%	29.7%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	26.7%	0.0%	100.0%	8.3%		
	健康コミュニケーション学	度数	10	7	16	76	32	5	0	0	3	1	10	0	9	1	2	7	179	
	職業の%		33.3%	53.8%	72.7%	80.0%	86.5%	62.5%	0.0%	0.0%	75.0%	100.0%	0.0%	100.0%	60.0%	100.0%	33.3%	58.3%		
	その他Q8	度数	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	
	職業の%		3.3%	0.0%	4.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%		
合計	度数	30	13	22	95	37	8	2	2	4	1	2	10	4	15	1	6	12	264	

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。

a. 2 分グループを値 1 で集計します。

\$Q9*職業 クロス表

		職業																	合計	
		医師	薬剤師	看護師・助産師	保健師	栄養士	臨床検査技師	診療放射線技師	臨床工学技士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	介護福祉士	社会福祉士	大学教員	行政職	大学院生	その他		
\$Q9*	平日夜間のカリキュラム	度数	12	11	12	44	20	8	1	2	3	1	0	5	0	11	1	1	10	142
	職業の%	40.0%	84.6%	50.0%	46.3%	52.6%	100.0%	50.0%	100.0%	75.0%	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	73.3%	100.0%	16.7%	83.3%		
	士日を中心としたカリキュラム	度数	7	7	12	59	27	8	2	2	3	1	2	4	4	9	1	5	7	160
		職業の%	23.3%	53.8%	50.0%	62.1%	71.1%	100.0%	100.0%	100.0%	75.0%	100.0%	100.0%	40.0%	100.0%	60.0%	100.0%	83.3%	58.3%	
	講義のビデオ視聴	度数	23	11	10	52	22	3	2	2	4	0	1	3	2	7	1	3	5	151
		職業の%	76.7%	84.6%	41.7%	54.7%	57.9%	37.5%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	50.0%	30.0%	50.0%	46.7%	100.0%	50.0%	41.7%	
	一定期間の集中講義	度数	15	5	10	45	18	1	0	1	1	0	0	5	2	9	0	3	9	124
		職業の%	50.0%	38.5%	41.7%	47.4%	47.4%	12.5%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	60.0%	0.0%	50.0%	75.0%	
	修業年限2年未満の短期履修	度数	13	4	10	29	15	2	0	1	2	1	1	3	2	3	0	2	3	91
		職業の%	43.3%	30.8%	41.7%	30.5%	39.5%	25.0%	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%	50.0%	30.0%	50.0%	20.0%	0.0%	33.3%	25.0%	
	修業年限2年を超える長期履修	度数	6	2	6	17	6	2	0	0	0	0	0	1	0	9	0	2	1	52
		職業の%	20.0%	15.4%	25.0%	17.9%	15.8%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	60.0%	0.0%	33.3%	8.3%	
	その他Q9	度数	6	0	2	2	4	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	2	20
		職業の%	20.0%	0.0%	8.3%	2.1%	10.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%	16.7%	
合計	度数	30	13	24	95	38	8	2	2	4	1	2	10	4	15	1	6	12	267	

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。

a. 2 分グループを値 1 で集計します。

環境が整った場合入学したいと考えるか*職業 クロス表

		職業																	合計	
		医師	薬剤師	看護師・助産師	保健師	栄養士	臨床検査技師	診療放射線技師	臨床工学技士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	介護福祉士	社会福祉士	大学教員	行政職	大学院生	その他		
環境が整った場合入学したいと考えるか	度数	4	1	3	7	2	2	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	23	
	職業の%	13.3%	7.7%	13.0%	7.4%	5.4%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	13.3%	0.0%	0.0%	7.7%		
	機会があれば入学したい	度数	16	2	11	38	12	2	0	1	0	0	1	3	1	1	0	2	4	94
		職業の%	53.3%	15.4%	47.8%	40.4%	32.4%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	30.0%	25.0%	6.7%	0.0%	33.3%	30.8%	
	将来必要を感じたら入学を考える	度数	9	8	5	41	18	4	2	0	4	1	0	5	2	8	1	2	1	111
		職業の%	30.0%	61.5%	21.7%	43.6%	48.6%	50.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	53.3%	100.0%	33.3%	7.7%	
	入学を希望しない	度数	1	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	2	0	3	0	1	1	14
		職業の%	3.3%	7.7%	4.3%	2.1%	5.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	16.7%	7.7%	
	わからない	度数	0	1	3	6	3	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	6	23
		職業の%	0.0%	7.7%	13.0%	6.4%	8.1%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	16.7%	46.2%	
合計	度数	30	13	23	94	37	8	2	2	4	1	2	10	4	15	1	6	13	265	

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。

統計

		所在地	業種	大学院大学の必要性	修士生を採用したいと思うか	貴団体の職員（教員）の入学を希望するか	職員（教員）の希望に対し入学をすすめるか
度数	有効数	83	83	83	83	83	83
	欠損値	0	0	0	0	0	0

度数テーブル

所在地

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	賀茂	6	7.2	7.2	7.2
	熱海伊東	3	3.6	3.6	10.8
	駿東田方	16	19.3	19.3	30.1
	富士	3	3.6	3.6	33.7
	静岡	23	27.7	27.7	61.4
	志太榛原	11	13.3	13.3	74.7
	中東遠	7	8.4	8.4	83.1
	西部	14	16.9	16.9	100.0
	合計	83	100.0	100.0	

業種

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	病院(大学附属病院含む)	5	6.0	6.0	6.0
	大学	2	2.4	2.4	8.4
	介護サービス事業所	4	4.8	4.8	13.3
	行政機関	32	38.6	38.6	51.8
	企業の健康保険組合	34	41.0	41.0	92.8
	健診機関	4	4.8	4.8	97.6
	その他	2	2.4	2.4	100.0
	合計	83	100.0	100.0	

大学院大学の必要性

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	高い必要性を感じる	8	9.6	9.6	9.6
	ある程度の必要性を感じる	54	65.1	65.1	74.7
	あまり必要性を感じない	10	12.0	12.0	86.7
	必要性はない	3	3.6	3.6	90.4
	わからない	8	9.6	9.6	100.0
	合計	83	100.0	100.0	

修士生を採用したいと思うか

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	採用したい	11	13.3	13.3	13.3
	採用を検討したい	32	38.6	38.6	51.8
	採用しない	7	8.4	8.4	60.2
	わからない	33	39.8	39.8	100.0
	合計	83	100.0	100.0	

貴団体の職員（教員）の入学を希望するか

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	入学させたい	3	3.6	3.6	3.6
	入学させることを検討したい	27	32.5	32.5	36.1
	あまり入学させたくない	4	4.8	4.8	41.0
	入学を希望しない	7	8.4	8.4	49.4
	わからない	42	50.6	50.6	100.0
	合計	83	100.0	100.0	

職員（教員）の希望に対し入学をすすめるか

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	積極的にすすめる	2	2.4	2.4	2.4
	状況によってはすすめる	53	63.9	63.9	66.3
	あまりすすめたくない	1	1.2	1.2	67.5
	すすめない	3	3.6	3.6	71.1
	わからない	24	28.9	28.9	100.0
	合計	83	100.0	100.0	

ケースの要約

	ケース					
	有効数		欠損		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
\$Q4 ^a	79	95.2%	4	4.8%	83	100.0%

a. 2 分グループを値 1 で集計します。

\$Q4 度数分布表

		応答数		ケースのパーセント
		度数	パーセント	
\$Q4 ^a	自ら研究課題を見つけ、研究計画を立てる能力	15	7.8%	19.0%
	医療・介護などのデータを分析できる能力	57	29.5%	72.2%
	健康政策や研究プロジェクトのマネジメント力	52	26.9%	65.8%
	医療・介護現場で指導的役割を担う能力	47	24.4%	59.5%
	効果的に介入できるコミュニケーション能力	17	8.8%	21.5%
	遺伝・ゲノムに関する専門知識	4	2.1%	5.1%
	その他Q4	1	.5%	1.3%
合計	193	100.0%	244.3%	

a. 2 分グループを値 1 で集計します。

ケースの要約

	ケース					
	有効数		欠損		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
大学院大学の必要性*業種	83	100.0%	0	0.0%	83	100.0%

大学院大学の必要性*業種 クロス表

			業種						合計	
			病院(大学附属病院含む)	大学	介護サービス事業所	行政機関	企業の健康保険組合	健診機関		その他
大学院大学の必要性	高い必要性を感じる	度数	0	0	0	5	1	1	1	8
		業種の%	0.0%	0.0%	0.0%	15.6%	2.9%	25.0%	50.0%	
	ある程度の必要性を感じる	度数	2	1	3	21	25	2	0	54
		業種の%	40.0%	50.0%	75.0%	65.6%	73.5%	50.0%	0.0%	
	あまり必要性を感じない	度数	2	0	0	5	3	0	0	10
		業種の%	40.0%	0.0%	0.0%	15.6%	8.8%	0.0%	0.0%	
	必要性はない	度数	1	1	0	0	0	0	1	3
		業種の%	20.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
	わからない	度数	0	0	1	1	5	1	0	8
		業種の%	0.0%	0.0%	25.0%	3.1%	14.7%	25.0%	0.0%	
合計		度数	5	2	4	32	34	4	2	83

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。

\$Q4*業種 クロス表

			業種						合計	
			病院(大学附属病院含む)	大学	介護サービス事業所	行政機関	企業の健康保険組合	健診機関		その他
\$Q4 ^a	自ら研究課題を見つけ、研究計画を立てる能力	度数	0	1	1	6	4	2	1	15
		業種の%	0.0%	50.0%	25.0%	19.4%	12.1%	50.0%	50.0%	
	医療・介護などのデータを分析できる能力	度数	1	1	3	24	25	2	1	57
		業種の%	33.3%	50.0%	75.0%	77.4%	75.8%	50.0%	50.0%	
	健康政策や研究プロジェクトのマネジメント力	度数	1	2	0	25	19	4	1	52
		業種の%	33.3%	100.0%	0.0%	80.6%	57.6%	100.0%	50.0%	
	医療・介護現場で指導的役割を担う能力	度数	3	1	4	16	19	2	2	47
		業種の%	100.0%	50.0%	100.0%	51.6%	57.6%	50.0%	100.0%	
	効果的に介入できるコミュニケーション能力	度数	0	1	2	6	5	2	1	17
		業種の%	0.0%	50.0%	50.0%	19.4%	15.2%	50.0%	50.0%	
	遺伝・ゲノムに関する専門知識	度数	0	0	0	2	2	0	0	4
		業種の%	0.0%	0.0%	0.0%	6.5%	6.1%	0.0%	0.0%	
	その他Q4	度数	0	0	0	0	1	0	0	1
		業種の%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	
合計		度数	3	2	4	31	33	4	2	79

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。

a. 2 分グループを値 1 で集計します。

修了生を採用したいと思うか*業種 クロス表

		業種							合計
		病院(大学附属病院含む)	大学	介護サービス事業所	行政機関	企業の健康保険組合	健診機関	その他	
修了生を採用したいと思うか	採用したい	度数 0	0	1	7	1	1	1	11
	業種の %	0.0%	0.0%	25.0%	21.9%	2.9%	25.0%	50.0%	
	採用を検討したい	度数 1	1	3	17	8	2	0	32
	業種の %	20.0%	50.0%	75.0%	53.1%	23.5%	50.0%	0.0%	
	採用しない	度数 1	0	0	0	6	0	0	7
	業種の %	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.6%	0.0%	0.0%	
	わからない	度数 3	1	0	8	19	1	1	33
	業種の %	60.0%	50.0%	0.0%	25.0%	55.9%	25.0%	50.0%	
合計	度数	5	2	4	32	34	4	2	83

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。

貴団体の職員(教員)の入学を希望するか*業種 クロス表

		業種							合計
		病院(大学附属病院含む)	大学	介護サービス事業所	行政機関	企業の健康保険組合	健診機関	その他	
貴団体の職員(教員)の入学を希望するか	入学させたい	度数 0	0	0	2	0	1	0	3
	業種の %	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	25.0%	0.0%	
	入学させることを検討したい	度数 2	1	3	13	6	1	1	27
	業種の %	40.0%	50.0%	75.0%	40.6%	17.6%	25.0%	50.0%	
	あまり入学させたくない	度数 1	0	0	3	0	0	0	4
	業種の %	20.0%	0.0%	0.0%	9.4%	0.0%	0.0%	0.0%	
	入学を希望しない	度数 1	0	0	0	6	0	0	7
	業種の %	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.6%	0.0%	0.0%	
	わからない	度数 1	1	1	14	22	2	1	42
	業種の %	20.0%	50.0%	25.0%	43.8%	64.7%	50.0%	50.0%	
合計	度数	5	2	4	32	34	4	2	83

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。

職員(教員)の希望に対し入学をすすめるか*業種 クロス表

		業種							合計
		病院(大学附属病院含む)	大学	介護サービス事業所	行政機関	企業の健康保険組合	健診機関	その他	
職員(教員)の希望に対し入学をすすめるか	積極的にすすめる	度数 0	0	0	2	0	0	0	2
	業種の %	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
	状況によってはすすめる	度数 2	2	4	22	19	3	1	53
	業種の %	40.0%	100.0%	100.0%	68.8%	55.9%	75.0%	50.0%	
	あまりすすめたくない	度数 0	0	0	1	0	0	0	1
	業種の %	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
	すすめない	度数 1	0	0	0	2	0	0	3
	業種の %	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	
	わからない	度数 2	0	0	7	13	1	1	24
	業種の %	40.0%	0.0%	0.0%	21.9%	38.2%	25.0%	50.0%	
合計	度数	5	2	4	32	34	4	2	83

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。

大学院大学の設置に係る基本構想（素案）

1 大学院大学の設置理由

（1）本県健康を取り巻く状況

- ・県内の高齢化率は、2015年で27.8%となっており、今後、少子高齢化の進行により、2040年には37.0%まで上昇すると推計されている。
- ・高齢化の進行に伴い、2008年度から2015年度の7年間で、静岡県医療費は、9,288億円から1兆1,414億円と約1.2倍に、介護に要する費用は、1,886億円から2,624億円と約1.4倍に拡大している。
- ・静岡県の健康寿命は、2010年、2013年、2016年の平均で男性72.15歳、女性75.43歳と、男女ともに全国ベスト3に入っている。

（2）これまでの健康寿命延伸への取組

- ・約67万人分の特定健診データを分析し、市町別マップなどにより「見える化」することで、市町別、あるいは伊豆、東部、中部、西部のエリア別に健康指標の特徴や傾向、疾患などの健康課題を明確化している。
- ・県内在住の高齢者約22,000人を対象に生活実態調査を行い、「運動、食生活、社会参加」が健康長寿を支える3要素との結果を取りまとめた。

（3）科学的知見の導入の必要性

- ・緑茶を多く飲むと死亡率が低下する等の統計的な結果について、科学的な視点からの要因分析とそれに基づいた施策の創出には至っていない。
- ・既存の健康増進施策、疾病予防対策を科学的な視点に基づいて整理、体系化し、研究で得られた科学的知見を施策の立案に反映させ、効果的な実施を図ることが必要。

（4）本県が大学院大学を設置する意義

- ・ゲノムコホート研究などのように、100年先を見据えた長期かつ継続的な研究を進める。

- ・社会健康医学の学問体系に沿った効果的な講義や研究指導により、高度な専門性と高い職業倫理観を持ち、地域医療の現場において指導的役割を担う人材を育成する。

< 大学院大学の必要性 >

- ・医療や介護の現場において、自ら課題（リサーチクエスチョン）を見つけ、疫学や生物統計学などの専門知識を基に課題解決のための研究計画を立て、研究成果を科学的知見として論文にまとめることができる人材を育成するためには、学術の理論とともに社会への応用を研究する大学院大学が必要である。
- ・医師のように既に大学を卒業し医療現場で働いている方が、学位や資格といったモチベーションを持ちながら、現場での研究シーズを持ち寄り、そこに必要な専門的知識（スキル）を与えて研究できる場として、大学院大学が必要である。

< 静岡県が設置する必要性 >

- ・健康を取り巻く環境は、全国でも様々な違いがあり、静岡県内においても、東部、中部、西部では、健康に関し抱えている課題は異なっている。そうした中、静岡県内をフィールドとして研究することにより、地域の課題に合った健康増進施策を科学的知見に基づいて展開することで、県民の健康寿命の更なる延伸が図られることから、静岡県として取り組む意義がある。

2 大学院大学の概要

(1) 大学院大学の基本的な理念

- ・社会健康医学研究推進基本計画に掲げた4つの基本方針を実現するための大学院大学として、「研究の推進」、「人材の育成」、「成果の還元」、「社会健康医学の拠点」を大学院大学の基本理念とする。

ア 研究の推進

- ・健康増進施策や疾病予防対策に科学的な知見を導入するため、医療ビッグデータの活用、効果的な健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究、ゲノムコホート研究に取り組む。

イ 人材の育成

- ・社会健康医学の研究を長期かつ継続的に推進し、研究の成果を県民に分かりやすい形で随時還元するため、研究や取組の担い手となる、地域医療のリーダーとなる「医療専門職」、各地域の現場で健康増進施策を担う「健康づくり実務者」、長期かつ継続的に研究を行う「研究者」を育成する。

ウ 成果の還元

- ・社会健康医学の研究により得られた成果を、行政や医療機関などと連携して健康増進施策や疾病予防対策に反映するとともに、県民が自らの健康を意識し主体的に健康増進活動に取り組むよう、社会健康医学の研究成果を県民に分かりやすく情報提供する。

エ 県内における社会健康医学の拠点

- ・健康寿命の延伸を主要テーマとしての取組や取組に用いたデータの分析、静岡県の施策への提言（シンクタンク機能）、県民への啓発（情報発信機能）などを行うとともに、それらの活動に取り組む専門的な人材を継続的に育成する。

（２）養成する人材像

- ・社会健康医学の研究を長期かつ継続的に推進し、研究の成果を県民に分かりやすい形で随時還元するため、研究や取組の担い手となる、地域医療のリーダーとなる「医療専門職」、各地域の現場で健康増進施策を担う「健康づくり実務者」、長期かつ継続的に研究を行う「研究者」を育成する。

ア 保健・医療・福祉領域の高度医療専門職

- ・単なる病気の治療や延命の操作だけでなく最期まで元気で健康に暮らしたいという県民の希望を理解し、健康寿命の更なる延伸という形で実現するため、県内の多くの健康増進に関わる拠点で、静岡県の地域医療のリーダーとなり、県民により身近な場所で科学的な知見に基づくデータ分析や疾病対策、健康づくりなどを担う、医師や看護師などの「医療専門職」を育成する。
- ・例えば、臨床データの有効活用に精通した地域の医療現場で活躍する医療専門職や、科学的な知見に基づきデータ分析や疾病対策、健康づくりなどを担う医療専門職、さらには、臨床試験・コホート研究に従事する研究意欲をもった医療専門職などを育成する。

イ 健康づくり実務者

- ・主に保健所などにおいて、社会健康医学の知見を取り入れた健康指導などを行い、県民の健康寿命の更なる延伸に資する施策を各地域の現場で担う、保健師や栄養士などの「健康づくり実務者」を育成する。具体的には、社会健康医学の研究で得られたデータや科学的知見に基づく健康増進活動や疾病予防対策について、県民の生活に取り込むことができる能力を身につけ、現場で発揮できる人材の育成を目指す。
- ・例えば、行政や企業などにおける健康づくり実務者や、科学的知見を取り入れた健康指導などを担う健康づくり実務者などを育成する。

ウ 健康寿命の延伸に取り組む研究者

- ・科学的知見からの手法に基づいた県民の健康寿命の更なる延伸に取り組むため、今までの施策の体系化や医療データの要因分析などを継続的に進めていく役割を担う「研究者」を育成する。
- ・例えば、医療ビッグデータ解析のための医療統計手法など臨床研究のサポート役となる専門技術者や、医療保険者、企業における健康ビッグデータ分析専門家、医療データの要因分析などを継続的に進めていく役割を担う研究者、さらには、多様な生命情報を総合的に分析・解析する能力を持つ研究者などを育成する。

(3) 大学院大学の名称

- ・大学院大学の基本的な理念や養成する人材像を踏まえ検討し、設置申請までに決定する。

(4) 研究科、専攻の構成と入学定員

- ・研究科及び専攻の名称については、大学院大学の名称や取得できる学位を踏まえ検討し、設置申請までに決定する。
- ・入学定員については、本基本構想の策定に当たり実施した進学意識及び人材需要の調査結果や、他の都道府県における大学院大学や独立研究科の定員の状況を踏まえ、当初は1学年10人程度を見込む。

(5) 取得できる学位

- ・本大学院大学において授与する学位は、「修士（社会健康医学）」とする。
- ・なお、国際的な通用性に留意して、英訳名称は、Master of Public Health (MPH) とする。

3 教育研究体制

(1) 教育課程

ア アドミッションポリシー

- ・本大学院大学では、既に医療や健康に関する基礎的教育を受け、医療や介護など県民の健康を直接サポートしている第一線で活躍し経験を積んできた方で、その教育や経験に上乘せする形で、さらに能力のステップアップを図る方の応募を期待する。

(ア) 保健・医療・福祉領域の高度医療専門職

- ・地域の病院や診療所に勤務する医師、看護師、薬剤師など
- ・健診機関で健康指導を行う医師、保健師、栄養士など

(イ) 健康づくり実務者

- ・保健所（行政）や企業で健康づくり活動を行う保健師、栄養士など
- ・社会福祉施設で健康指導や機能回復訓練を行う看護師、介護職員など

(ウ) 健康寿命の延伸に取り組む研究者

- ・医療機関や健診機関で医療データの解析を行う専門家
- ・研究成果を健康増進施策に効果的に結び付けるための、心理学・生命倫理学、行動学などの専門家

イ カリキュラムポリシー

- ・国際的に通用するMPH（公衆衛生学修士）と同等の基本的能力を養うため、国際的な公衆衛生学教育プログラムの認定機関である米国公衆衛生教育協会において基本科目とされる「疫学」、「生物統計学」、「環境健康科学」、「社会行動科学」、「健康政策管理学」を基盤として教育を行う。
- ・県内の医療や介護等の現場に研究成果を還元できるよう、健診・医療・介護データなど静岡の地域資源を活用した研究指導を行う。
- ・研究成果を県民に効果的に還元するため、コミュニケーション能力の向上を図るための教育を行う。

(ア) 授業科目の概要

a 疫学

- ・ 県民の健康に関わる問題を解決するためには、科学的な手法に立脚した研究が必要である。そこで、解決すべき問題は何かを考え、その問題の原因を解明してどこに介入すべきなのか、すなわち、仮説を立て検証するための研究デザインや、データの収集と解釈を理論的かつ実践的に学ぶ科目区分である。
- ・ 疫学研究を実施するための基本的な分野である疫学、医療統計学、医療倫理学、健康情報学などを、実地調査・研究を含む演習・実習を通じてより実践的な形で修得できる研究を目指す。
- ・ なお、実地調査・研究やデータの収集、分析に際しては、静岡県健康や医療に関する課題を主なテーマと位置付けるとともに、静岡県の特性を考慮した形での教育プログラムの設定などを行う。
- ・ 具体的には、「疫学(入門)」、「」といった理論講義の授業科目のほか、「疫学(研究デザイン)」、「」といった演習形式による実践的な授業科目を設置する。

b 生物統計学(健康ビッグデータ)

- ・ 統計学の基本から専門的な統計手法を駆使し、試験計画を立案して結果を科学的に解析・評価できる知識と技術を学ぶ科目区分である。
- ・ 医療現場や施策に還元可能な臨床研究、特に医療現場で生まれる疑問や問題意識から発するリサーチクエスト(研究課題に対する具体的な問いかけ)に応える研究、現実から得られるビッグデータを活用した研究結果を、医療現場や政策に還元し、最終的に「医療を変える」研究を行うことを目指す。
- ・ 一方で、現存する保健・医療・介護のビッグデータにアクセスし、問題の分析を行い、課題解決における道筋を得ることが可能な能力を習得させる。併せて、ICTを活用した最先端の取組にふれ、AIを組み込んだシステムの構築や、IoT(あらゆる「モノ」がインターネットとつながる仕組みや技術)を活用した地域参加型の事業など、今後の技術的革新を見込んだ柔軟な発想に基づいたイノベーション創出を可能とする能力の養成も行う。
- ・ 具体的には、「健康・医療ビッグデータ」、「医療統計」といった理

論講義の授業科目のほか、「医療統計実習」、「」といった演習形式による実践的な授業科目を設置する。

c 環境健康科学

- ・自然環境や社会環境など人間を取り巻く環境が、人々の健康に及ぼす影響について、系統的に評価することを学ぶ科目区分である。
- ・具体的には、「環境健康科学」、「産業衛生学」といった理論講義の授業科目のほか、県内の施設におけるフィールド実習を行う授業科目を設置する。

d 社会行動科学（健康情報学）

- ・個人、現場、地域の各レベルでエビデンスに基づいた実効性のある解決策を立案、実施できる知識を学ぶ科目区分である。
- ・具体的には、「健康情報学」、「ヘルスコミュニケーション学」といった理論講義の授業科目を設置する。

e 健康政策管理学（ヘルスサービス研究）

- ・複雑化する公衆衛生上の課題について、保健政策を科学的に判断、立案、実行できる知識を学ぶ科目区分である。
- ・具体的には、「健康政策学」、「医療経済学」といった理論講義の授業科目のほか、県内の施設におけるフィールド実習を行う授業科目を設置する。

f ゲノム疫学

- ・県内で比較的多い疾病、健康に係る原因遺伝子の解明や、県民個々の遺伝因子や環境因子との関係を踏まえた最適な健康管理や予防対策などについて、理論的かつ実践的に学ぶ科目区分である。
- ・ゲノムコホート研究に携わるためには、医学・疫学・情報学・統計学・遺伝学の知識を融合した分野横断的な幅広い知識を修得し、さらにそれらを利用した生体情報の統合解析や分析といった研究に関わる実務能力を養う研究を行う。したがって、一般的な疫学や公衆衛生学の教育に加えて、ゲノム医学分野の教育の充実、統計遺伝学、計算科学、生命情報学などの教育を行う。
- ・近年の急速な解析技術の進歩・発展に対応するため、最新の解析理論や方法論についても可能な限り修得させる。

- ・具体的には、「ゲノム情報疫学」、「ゲノム医療遺伝学」といった理論講義の授業科目のほか、「 」、「 」といった演習形式による実践的な授業科目を設置する。

ウ ディプロマポリシー

- ・公衆衛生の 5 つのコア領域（疫学、生物統計学、環境健康科学、社会行動科学、健康政策管理学）の基本的内容を理解している。
- ・医療や介護等の現場での課題を見つけ、その課題を解決するための研究計画を自ら立案し、実行できる能力を身に付けている。
- ・研究成果を医療や介護の現場に効果的に還元できる、ヘルスコミュニケーション能力を身に付けている。
- ・社会健康医学の実践活動においてリーダーシップを発揮できる能力(リーダーシップ)を身に付けている。

(2) 教員組織

- ・教員組織は時代の変化や教育研究の進展等に対応できるような柔軟な体制とする必要がある。原則として、主要科目等は専任教員（教授、准教授等）が担当するものとし、必要に応じ非常勤講師等で対応する。
- ・教員の確保に際しては、教授・准教授・講師の人数及び年齢のバランスを考慮し十分な教育研究ができるよう、優れた研究業績を有する職員を配置する。
- ・採用に当たっては、他大学において活動実績のある教員をクロスアポイントメントなどの手法を用いて招聘することを検討する。また、必要に応じて、国内外で活躍する識者を非常勤講師として確保する。

(3) 入学者の選抜方法

- ・入学者の選抜については、一般入試を基本としつつ、医療・介護現場の第一線で活躍している社会人を対象とした社会人入学など多彩な方法を設けるよう努める。
- ・なお、出願資格については、社会人を対象として人材育成するため、大卒者だけでなく、個別の入学資格審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者も対象とする。

(4) 施設整備等

- ・ 設置場所は、既に県から委託を受けて社会健康医学の研究を実施している県立総合病院リサーチサポートセンターの施設を有効活用する。
- ・ ただし、今後、教育課程や教員組織を検討する中で、教育研究に必要な施設がリサーチサポートセンター内で収まらない場合には、近隣の県有施設の活用を検討する。
- ・ 校舎・設備については設置基準に基づく施設・設備の整備に加え、教育課程を実施するのに必要な施設・設備を整備する。

4 地域の医療機関、大学等との連携

(1) 既存の大学や研究機関との連携

- ・ 社会健康医学の研究は、これまでも、健診データの分析や生活習慣病の要因に係る疫学研究など、県内の大学や研究機関における研究成果の蓄積があるため、これらの研究成果の活用や、共同研究を行うことにより、研究者同士の交流の輪も広がることが期待される。
- ・ 例えば、県内唯一の医師養成機関である浜松医科大学とは、臨床研究から得られた科学的知見を健康増進施策や疾病予防対策にも活用するといった連携が考えられる。また、薬学や看護学、食品栄養科学の専攻科がある静岡県立大学では、これまで産学民官の連携体制が構築されていることから、こうした連携体制の下で共同研究を行うなどの連携が考えられる。
- ・ また、社会健康医学の研究は、医療系の研究員のほか、医療ビッグデータの収集、解析に必要な情報工学の研究者のほか、心理学や生命倫理学といった人文科学系の研究者など、幅広い分野の専門家が関わる必要があるため、こうした分野を専門とする既存の大学との連携も重要となる。

(2) 地域医療を支える関係者との連携

- ・ 社会健康医学の研究には、地域医療に精通した医師や看護師などの協力が不可欠であり、研究成果を還元する場合にも、地域住民に密着した医療を行う医師や、生活指導を行う保健師などとの連携が必要である。

- ・また、医療ビッグデータを活用した研究においては、レセプトデータやカルテ情報を収集し分析するため、こうしたデータの収集に当たっては、医師会など地域医療を支える関係者の協力が不可欠である。

5 開学の時期

- ・教育研究体制や運営組織、施設整備などの具体化を図りながら文部科学省への申請の準備を進め、早期の開学を目指す。

6 大学院大学の設置運営主体

- ・大学院大学の運営に当たっては、県直営のほかに公立大学法人制度での運営が考えられる。

社会健康医学系大学院大学の基本構想 検討資料（基本理念・養成する人材像・ポリシー等）

項目	京都大学（専門職）	帝京大学（専門職）	聖路加国際大学（専門職）	大阪大学	広島大学	静岡県
基本理念 設置の趣旨目的	<p>社会健康医学系専攻の使命は、<u>医学・医療と社会・環境とのインターフェースを機軸とし以下の活動とその相互作用を通じて、人々の健康と福祉を向上させることである。</u></p> <p><u>教育（Teaching）</u> 社会健康医学に関わる実務、政策、研究、教育において専門的かつ指導的役割を身につける幅広い教育を行う。</p> <p><u>研究（Research）</u> 人々の健康に関わる経済、環境、行動、社会的要因についての知識を深め、新しい知識と技術を生み出す。</p> <p><u>成果の還元（Translating Research into Practice and Policy）</u> その成果を健康・医療に関わる現実社会の実践方策と政策に還元する。</p> <p><u>専門的貢献（Professional Practice）</u> 専門の知識と技術を持って、個人・組織・地域・国・世界レベルで貢献する。</p>	<p>本専門職大学院では、患者や地域住民の健康回復・増進と、社会全体の健全な医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するために、様々な公衆衛生上の諸課題に対して<u>指導的立場で且つ科学的判断に基づく問題解決型の対処ができる高度専門職業人（専門職学位課程）を養成することを基本理念とする。</u></p> <p>本理念は、「健全な医療体制構築のための医療管理職のマネジメント能力向上」や「就業者の健康にかかわる職域の産業保健の専門家養成」、「医療の質向上につながる臨床試験従事者の技術・知識の専門化」といった上述した本専門職大学院の人材養成の重点領域へと引き継がれているとともに、緊急に対応すべきと認識している社会的必要性とも関連している。</p> <p>また、この基本理念を実現するためには、これまでのような理論先行の公衆衛生教育から一歩踏み出し、現場の問題に発し現場での実践に資する研究・教育が必要となる。したがって、本専門職大学院では、今日の医療・福祉の現場に要請される実務上の諸課題に対処できるための高度な科学的判断力ならびに強固な使命感を涵養するために、「ケースメソッド」による実務教育に重点を置</p>	<p>< 建学の精神 > 本研究科は、医療・保健分野における高度な専門知識の修得および国内外の諸問題をグローバルスタンダードに照らし合わせて解決する能力の育成により、<u>社会における人間の健康と幸福の保持・増進に寄与する公衆衛生分野の高度専門職業人を養成することを目的とします。</u></p> <p>< 設置の趣旨 > 医学の社会的応用としての医療は、大学医学部で行われる教育・研究・診療において主流となっている生物医学的アプローチの延長線上のみで成り立つものでないことは自明である。</p> <p>たとえば、健康と疾病に対する国民の多様化する価値観、高齢社会の急速な進行と疾病構造の変化、増大する国民医療費、国際化社会における新興・再興感染症などに対する課題の解決には、身体をマイクロレベルに細分化する生物医学的アプローチとは異なる視点が必須となる。特に、限られた医療資源をどのように用いれば、最も多くの人々が医療の恩恵を被ることができるのかを追求することが、先進諸国・開発途上国を問わず、全ての国々で避けて通れない重要なテーマとなっている。</p>	<p>【研究科の目的】 次の各号を理念に掲げ、<u>高度な倫理観及び深い教養に裏付けられた創造性豊かな医療人及び医学・保健学研究者を養成すること</u>を目的とする。</p> <p>(1) 世界の医療、医学、保健学及び生物学の発展への貢献</p> <p>(2) 健康で質の高い生活を保障する地域医療の推進</p> <p>(3) 次世代を担う優秀な人材の育成への尽力</p>	<p>超高齢化・超少子化社会の進展に伴う疾病構造の変化や急速に進むグローバル化の中で、医療、保健、福祉、医療行政、臨床研究などの現場では、より専門性を深めること、並びにそれぞれの専門に加えて、疫学、生物統計学、社会科学・行動科学、保健行政・医療管理学、国際保健・環境保健学の5分野にわたる公衆衛生学を修めた者が求められています。</p> <p>また、科学技術の進歩や国際化を含めた社会経済構造の変化に伴い重要性を増しているレギュラトリーサイエンスの概念(科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づいた確かな予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学)を理解し、診療、臨床研究、保健施策、保健指導、医療及び国際保健医療等の場において適切にかつ効果的に実践できる者が求められています。</p> <p>このような社会的・学術的要請の下、広島大学では、公衆衛生大学院の国際基準である「1) 疫学(Epidemiology)、2) 生物統計学(Biostatistics)、3) 社会科学・行動科学(Social and Behavioral Sciences)、4) 保健行政・医療管理学(Health Service Administration)、5)</p>	<p>社会健康医学研究推進基本計画に掲げた4つの基本方針を実現するための大学院大学として、当該基本方針を大学院大学の基本理念とする。</p> <p>研究の推進（計画 p16） 健康増進施策や疾病予防対策に科学的な知見を導入するため、医療ビッグデータの活用、効果的な健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究、ゲノムコホート研究に取り組む。</p> <p>人材の育成（計画 p31） 社会健康医学の研究を長期かつ継続的に推進し、研究の成果を県民に分かりやすい形で随時還元するため、研究や取組の担い手となる、地域医療のリーダーとなる「医療専門職」、各地域の現場で健康増進施策を担う「健康づくり実務者」、長期かつ継続的に研究を行う「研究者」を育成する。</p> <p>成果の還元（計画 p40） 社会健康医学の研究により得られた成果を、行政や医療機関などと連携して健康増進施策や疾病予防対策に反映するとともに、県民が自らの健康を意識し主体的に健康増進活動に取り組むよう、社会健康医学の研究成果を県民に分かりやすく情報提供する。</p>

		<p>くことを基本方針とする(人材養成の重点領域との関係についての詳細は、「教育課程の編成の考え方及び特色」を参照)。なお、本学公衆衛生学ではこれまでの講座スタッフの叡智を結集してケースメソッドによるシミュレーションエクササイズ形式の包括的な教育プログラムを独自に開発しており、平成17年度より公衆衛生学の講義・演習に活用している。</p>	<p>これらの諸問題に対処するためには、「社会における人間の健康と幸福の追求」というアプローチが必要となる。</p>		<p>国際保健・環境保健学 (Environmental Health Sciences)」の5分野の教育を体系的に行う公衆衛生学コース(修士課程)を設置して、<u>リサーチマインドを持ち科学的根拠に基づく医療 (EBM:Evidence-Based Medicine)を实践する医療従事者や政策の企画立案を担う公衆衛生行政担当者等の養成</u>を行います。</p>	<p>県内における社会健康医学の拠点(計画 p50) 健康寿命の延伸を主要テーマとしての取組や取組に用いたデータの分析、静岡県の施策への提言(シンクタンク機能)、県民への啓発(情報発信機能)などを行うとともに、それらの活動に取り組む専門的な人材を継続的に育成する拠点として機能する。</p>
--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

項目	京都大学（専門職）	帝京大学（専門職）	聖路加国際大学（専門職）	大阪大学	広島大学	静岡県
養成する人材像	<p>本課程は、<u>将来、保健・医療・福祉分野における専門職あるいは教育研究職につくことを希望する者が、「社会における人間」の健康に関わる問題を探知・評価・分析・解決するために必要な知識、技術、態度を身につけることを目的としています。</u>勉学の対象となる学問分野は、自然科学から人文科学にわたっていることから、あらゆる分野の出身者で、国内外の保健・医療・福祉分野で高度専門職業人あるいは教育研究者としての活躍をめざす意欲あふれる者の応募を歓迎します。</p> <p>なお、本専攻には、本来の2年制専門職学位課程（Master of Public Health：MPH）（以下、2年制 MPH）以外に、次のコースが開設されています。</p> <p><u>1年制 MPH コース</u>（平成23年度開設）</p> <p>本コースは、<u>公衆衛生の実務経験（注）を有する者を対象とした1年制の専門職学位課程</u>です。我が国では現場での公衆衛生実務経験を体系的に理論化し、さらに高度な専門性を身につける教育課程は十分に整備されてきませんでした。自らの実務経験を基に、さらに高度な専門性を身につけたい方を対象に、1年制コースを開設します。幅広い公衆衛生実務経験を有し、高度な専門性を獲得</p>	<p>（5）人材養成の構想</p> <p>本専門職大学院では、<u>急激な社会環境の変化に伴う保健・医療・福祉における喫緊な課題に対応し、患者や地域住民の健康回復・増進と、社会全体の健全な医療体制の持続的な発展、ならびに医療の質の継続的な向上に貢献できる高度専門職業人を養成する。</u></p> <p>（6）重点領域の人材養成像</p> <p><u>高いマネジメント能力を備えた医療管理職の養成</u></p> <p>医療システムのあり方とその管理をめぐる問題に対しては、地域を含めた医療体制、医療経営、医療安全、ならびに医療の情報化という視点からの変革とリスクマネジメントの重要性も求められている。</p> <p>また、医療構造が複雑化する今日においては、高度なマネジメント能力とリーダーシップを備えた病院経営管理のプロフェッショナルによる継続的な変革・改善が求められる。</p> <p>本専門職大学院では、このような医療管理職（特にコメディカル部門の管理責任者）に求められる多様な専門教育について、事例研究を重視した「ケースメソッド教育」による講義・演習ならびに現場実習を通じて、地域医療を含めた健全な医療体制構築と医療の質向上に貢献できる指導的役割</p>	<p>新たに設置しようとする公衆衛生学研究科は、学校教育法第99条第2項および専門職大学院設置基準に規定する専門職大学院として位置づけ、<u>社会における人間の健康と幸福の保持・増進に寄与する高度専門職業人を養成するため、数理科学・社会科学・人文科学を包括し、医療と保健、福祉の有効性・効率性・倫理性などに関する教育を行う。</u>本研究科にて学位を授与された者は以下に述べるような能力を保持することが期待される。</p> <p>医療・保健・福祉を取り巻く環境の変化を踏まえ、公衆衛生上の諸問題を科学的に分析・評価する能力（広い視野で医療・保健・福祉をとらえ、科学的に分析する能力）</p> <p>医療・保健・福祉の分野における国内外の諸問題をグローバルスタンダードに照らし合わせて評価・解決する能力（国際性および問題解決力）</p> <p>公衆衛生分野における高度専門職業人に必要な実践的技術・能力（疫学・生物統計学等、定性的、定量的分析方法の専門知識・技能）</p>	<p>【教育目標】</p> <p>大阪大学の教育目標を受けて、大学は学問と教育の府であり、アカデミズムの追求こそが大学人の使命であるという理念のもと、大阪大学大学院医学系研究科では、世界の医学界をリードするという志のもとに、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度な研究能力、及びその基礎となる豊かな学識を広い視野に立って養い、高度な倫理観と深い教養に裏づけられた創造性豊かな人材を輩出し、最先端の医学・医療・生命科学の推進および人類の健康・福祉への貢献をめざします。この目標を実現するため、医学系研究科では次のとおり人材の育成に取り組んでいます。</p> <p>< 修士課程 ></p> <p><u>最新の医科学や公衆衛生学の知識を身につけ、自然科学や社会科学の方法論で、医学や医学を取り巻く多様な諸問題の対処や解決できる人材の育成に取り組んでいます。</u></p>	<p>医学研究を実施する上で必要な<u>疫学・生物統計学の知識・技能を有し、実務家として実施可能なレベルの疫学研究および臨床試験計画書を作成し、実施・評価できる者</u></p> <p>EBM に必須である<u>疫学・臨床疫学の知識を有し、科学的医療を実践できる専門的な技術と指導力を有する医師</u></p> <p>医療専門分野の視点に加えて、<u>医療・病院を全体的に俯瞰しながら管理できる知識・技能を有する医療従事者</u></p> <p>集団を対象とした健康事象の把握手法である<u>疫学の知識・技能を有するとともに、予防、診断・治療、社会復帰に係わる社会的取組み、諸システムを包括的に理解し、医学・医療の実践に適用できる健康政策実務者</u></p> <p>公衆衛生学の見地に立って、（身体的・精神的・社会的）健康状態が良好とはいえない状況にある者を把握し、総合的医学や全人的医療・地域医療が実践できる専門的な技術と指導力を身に付けた医療従事者</p>	<p>地域に根ざした医療専門職（計画 p31）</p> <p>単なる病気の治療や延命の操作だけでなく最期まで元気で健康に暮らしたいという県民の希望を理解し、健康寿命の更なる延伸という形で実現するため、県内の多くの健康増進に関わる拠点で、静岡県の地域医療のリーダーとなり、県民により身近な場所で科学的な知見に基づくデータ分析や疾病対策、健康づくりなどを担う、医師や看護師などの「医療専門職」を育成する。</p> <p>健康づくり実務者（計画 p32）</p> <p>主に保健所などにおいて、社会健康医学の知見を取り入れた健康指導などを行い、県民の健康寿命の更なる延伸に資する施策を各地域の現場で担う、保健師や栄養士などの「健康づくり実務者」を育成する。具体的には、社会健康医学の研究で得られたデータや科学的知見に基づく健康増進活動や疾病予防対策について、県民の生活に取り込むことができる能力を身につけ、現場で発揮できる人材の育成を目指す。</p> <p>健康寿命の延伸に取り組む研究者（計画 p32）</p> <p>科学的知見からの手法に基づいた県民の健康寿命の更なる延伸に取り組むため、今までの施策</p>

<p>することを旨とする方を歓迎します。</p> <p>なお、本コースは2年制 MPH と併願することができますが、臨床研究者養成 (MCR) コースと併願することはできません。</p> <p>臨床研究者養成 (MCR) コース (平成 17 年度開設)</p> <p>MCR コースは、臨床経験を有する医師・歯科医師を対象とした1年制のコースです。本コースは、臨床研究の領域で活躍する研究者を育成するために、2005 年に開講した我が国で初めての本格的な教育課程で、2008 年に正式な分野として承認されました。自らの臨床経験に根ざしたリサーチ・クエスチョンにもとづいた臨床研究を志す方の応募を歓迎します。</p> <p>なお、本コースは、2年制 MPH と併願することができますが、1年制 MPH コースと併願することはできません。</p> <p>遺伝カウンセラーコース (平成 18 年度開講)</p> <p>本コースは、先端遺伝医療に対応できる高度な専門的知識とコミュニケーション能力を持ち、患者・家族の立場を理解して遺伝医療におけるインターフェースとなりうる人材を養成します。新しい遺伝医療分野に挑戦したい意欲のある方の応募を期待します。</p>	<p>を果たす高度専門職業人を養成する。</p> <p><u>専門的かつ指導的立場の産業保健従事者の養成</u></p> <p>職域は公衆衛生活動の対象として最大の集団であり、また職業に特異的な有害要因による健康問題も存在する。</p> <p>こういう状況に対して現場で中心として活動するのは産業医であるが、その養成は個別の問題をテーマとする一定数の講演受講と断片的に実施される僅かな回数の実技講習のみで、実務上発生する諸問題に対応できるだけの系統的養成がなされているとは言い難い。そのため、意欲を持った産業医にとっては、自らの経験を整理体系化し、組織的かつ発展性のある教育を受けたいという要求は強い。</p> <p>本専門職大学院では、こうした産業医出身の学生に対しては労働衛生コンサルタントを主として、衛生管理者、作業環境測定士を受験するだけの知識・技術能力の涵養を図り、産業保健における多様な課題に対して適切な対策を立案・遂行し、指導的立場で問題解決に導くことができる高度専門職業人を養成する。産業保健師・看護師あるいは作業環境測定士、衛生管理者等も能力と経験に応じて労働衛生コンサルタントへの基礎教育を行う。</p>	<p>公衆衛生の実践活動においてリーダーシップを発揮できる能力 (リーダーシップ)</p>			<p>環境・社会との関わりから健康事象を理解し、対処できる専門的知識・技術を身に付けた公衆衛生行政の担当者</p> <p>疫学・生物統計学の実践的知識・技術を習得し、臨床研究や疫学研究の実践に適用できる者</p> <p>保健医療政策の企画立案に必要な基礎科学等を修めた研究者及び公衆衛生行政の担当者</p>	<p>の体系化や医療データの要因分析などを継続的に進めていく役割を担う「研究者」を育成する。</p> <p>< 研究内容ごとの目指す人材像 ></p> <p>医療ビッグデータの活用 (計画 p33)</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床データの有効活用 (臨床統計学) に精通した地域の医療現場で活躍する医療専門職 行政や企業などにおける健康づくり実務者 医療ビッグデータ解析のための医療統計手法など臨床研究のサポート役となる専門技術者または、医療保険者、企業における健康ビッグデータ分析専門家 <p>疫学研究 (計画 p35)</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学的な知見に基づきデータ分析や疾病対策、健康づくりなどを担う医療専門職 科学的知見を取り入れた健康指導などを担う健康づくり実務者 医療データの要因分析などを継続的に進めていく役割を担う研究者 <p>ゲノムコホート研究 (計画 p36)</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療機関における臨床試験のデータ解析者 診断・治療に関わる解析・分析技術の開発を担当する専門技術者
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------	--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>臨床統計家育成コース（平成30年度開設）</p> <p>臨床統計家育成コースは日本医療研究開発機構の「生物統計家育成支援事業」のもと、高い倫理性、科学的客観性をもった臨床統計家（臨床試験に関わる統計専門職）の育成を目的としています。本コースでは、データサイエンスや統計学に関心のある方を、医学知識の有無を問わず歓迎します。</p>	<p><u>高い技能と管理能力を有する治験等の臨床試験従事者</u></p> <p>厚生労働省が発表した平成15年度重点新規施策「治験活性化プロジェクト」において、生物統計学の専門家養成が急務の政策課題として位置付けられた。</p> <p>一方で新薬の承認に関する規制や手続における国際標準化の流れの中で、新ガイドラインを遵守しながら臨床試験をデザイン、実施、解析できる医療従事者（生物統計学の素養のある治験等の臨床試験の統括・責任医師や、マネジメント志向で治験業務を遂行できる臨床試験看護師（薬剤師や臨床検査技師も含む））についても同様に不足していると指摘されている。</p> <p>本専門職大学院では、わが国において国際的な競争レベルの臨床試験が活発に実施されることを最終目標として、治験実施にあたり生物統計学の基礎知識及び技術を有し計画的、客観的、理論的な治療を実施できる臨床試験の統括または責任医師と、臨床試験の計画立案と試験結果を評価できる生物統計学専門家（解析担当）および臨床試験を厳格かつ円滑に実施・管理できる医療職（特に臨床試験看護師）を養成する。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 臨床試験、コホート研究に従事する、研究意欲をもった医療専門職 多様な生命情報を総合的に分析・解析する能力を持つ研究者 医学・生命科学の研究機関や製薬企業などの研究所でヒト生物学研究を行う研究者
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

項目	京都大学(専門職)	帝京大学(専門職)	聖路加国際大学(専門職)	大阪大学	広島大学	静岡県
アドミッションポリシー (入学者受入の方針)	<p>本課程は、将来、保健・医療・福祉分野における専門職あるいは教育研究職につくことを希望する者が、「社会における人間」の健康に関わる問題を探知・評価・分析・解決するために必要な知識、技術、態度を身につけることを目的としている。<u>勉学の対象となる学問分野は、自然科学から人文科学にわたっていることから、あらゆる分野の出身者で、国内外の保健・医療・福祉分野で高度専門職業人あるいは教育研究者としての活躍をめざす意欲あふれる者の応募を歓迎する。</u></p>	<p>公衆衛生学研究科(専門職学位課程)で公衆衛生を学ぶということは、「人々の生命と健康にかかわる公衆衛生上の諸課題に対して総合的な問題解決を実践するための幅広い知識・技術と公衆衛生マインドを身につけること」であり、そのため人々の健康に関する関心や基礎知識だけでなく学際的知識・経験、社会的問題意識や論理的考察力、ならびにリーダーシップの基礎的素養が求められる。</p> <p>従って、本研究科においては、学部教育や実務経験を通じて、次のような知識・資質を備えた学生の入学を希望し選抜する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>基礎的な知識・学力・実務能力を有し、更にそれらを高度化しようという意欲のある人</u> 2. <u>人々の命や健康に関心を持ち、病者・弱者に共感する心のある人</u> 3. <u>論理的・合理的な思考を重んじ、物事を多面的に考えようとする人</u> 4. <u>様々な背景の人々と協調し連携できる柔軟性に加えて指導力・実行力をあわせ持つ人</u> 	<p>聖路加国際大学大学院公衆衛生学研究科は、医療・保健分野における高度な専門知識の修得および国内外の諸問題をグローバルスタンダードに照らし合わせて解決する能力の育成により、社会における人間の健康と幸福の保持・増進に寄与する公衆衛生分野の高度専門職業人を養成することを目的とし、実務経験のある社会人を中心とした以下のような学生を受け入れたいと考えています。</p> <p><u>臨床経験や実務経験のある医師・歯科医師、看護師・保健師、病院事務職</u></p> <p><u>薬事行政や治験などの分野で実務経験のある、もしくはそれらの分野での実践、実務を志向する薬剤師・CRC</u></p> <p><u>医療・保健・福祉関連分野で実務経験のある、もしくはそれらの分野での実践、実務を志向する非医療従事者(統計家、行政職員等、医療ジャーナリストなどメディア関係者)</u></p> <p>国際保健分野、国際機関等での実践、実務を志向する者</p>	<p><u>欧文論文の読解ができる英語の能力を有している。</u></p> <p>自然科学諸分野の大学の教養レベルの知識を習得していることに加え、<u>学部レベル以上の専門基礎知識を有している。</u></p> <p>医学研究に必要な<u>優れた目的意識と倫理感</u>を備えている。</p>	<p><u>科学的根拠に基づく医療(EBM: Evidence-Based Medicine)を実施できる能力を有する医療従事者や公衆衛生行政の担当者として活躍したい者</u></p> <p><u>研究方法及び評価において専門的な知識・技能を修得し、臨床、保健、医療行政分野において課題解決に取り組みたい者</u></p>	<p>地域に根ざした医療専門職 (計画 p32)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の病院や診療所に勤務する医師、看護師、薬剤師など ・健診機関で健康指導を行う医師、保健師、栄養士など <p>健康づくり実務者(計画 p32)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所(行政)や企業で健康づくり活動を行う保健師、栄養士など ・社会福祉施設で健康指導や機能回復訓練を行う看護師、介護職員など <p>健康寿命の延伸に取り組む研究者(計画 p32)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関や健診機関で医療データの解析を行う専門家 ・研究成果を健康増進施策に効果的に結び付けるための、心理学・生命倫理学、行動学などの専門家 <p>大学院大学では、既に医療や健康に関する基礎的教育を受け、医療や介護など県民の健康を直接サポートしている第一線で活躍し経験を積んできたを対象として、その教育や経験に上乘せする形で、さらに能力のステップアップを図ることを主眼とした人材を育成するため、働きながら学べる環境を整備する。(計画 p38)</p>

		<p>2年コースにおいては、学部レベルの知識・学力を十分習得していることに加えて、人の命や健康に関心があり、病者・弱者や社会に貢献したいという志と現状に対する問題意識を持ち、問題解決のために自分自身の資質や能力を更に向上させようという意欲を持つ者を選抜する。</p> <p>1年コースにおいては、保健医療関係の実務経験があることが強く求められるがそれに加えて、保健医療の現状を正確に分析認識する意欲と能力を持ち、その改善のために自己の努力を惜しまないばかりでなく、他者と協同して実行する力を持つ者を選抜する。</p>	<p>公衆衛生分野に関する知識と技術を実務に還元するための具体的な目標を持つ者</p> <p>医療・保健・福祉の分野における国内外の諸問題をグローバルスタンダードに照らし合わせて解決する能力(国際性および問題解決力)を養うため、国際的な学修環境を提供するべく、外国人留学生を積極的に受け入れます。さらに、<u>在職のまま在学を希望する社会人のため、専門職大学院として働きながら学べる環境を整えます。</u></p>			
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--

項目	京都大学（専門職）	帝京大学（専門職）	聖路加国際大学（専門職）	大阪大学	広島大学	静岡県
カリキュラムポリシー （教育課程編成の方針）	<p>専門職学位課程は、「社会における人間」の健康に関わる問題を探知・評価・分析・解決するために必要な知識、技術、態度を備えた、保健・医療・福祉分野における専門職につく多様な人材を養成することを目的として、基礎、応用、実践からなる系統的な教育を行う。具体的には、「基礎教育」では、<u>社会健康医学分野のあらゆる専門家に必要な、コア領域（疫学、医療統計学、環境科学、行政・管理、社会科学）の教育を行い、非医療系出身者には、加えて、医学の基本知識を養うために、基礎医学、臨床医学の概論的教育を行う。これらの基礎教育以外に、さらに「応用教育」として、先端医科学から人文社会科学にわたる多様な選択科目を用意し、応用性、学際性の高い教育を提供することにより、高い素養を備えた専門家を養成する。</u></p>	<p>学位授与に要求される知識・能力を修得するために、公衆衛生学研究科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際標準として公衆衛生専門職に求められる一定レベルの知識・技能を習得するため、米国の公衆衛生教育協会 Council on Education for Public Health（以下、CEPH）の認定基準に準拠し、「疫学」、「生物統計学」、「社会行動科学」、「保健政策・医療管理学」、「産業環境保健学」の5つの領域（科目群）を設け、養成する人材像にかかわらず、各領域の基礎科目を必修科目としている。 2. 社会や環境との関わりで人間を捉えるという疫学的な思考と公衆衛生マインドを涵養するため、養成する人材像にかかわらず、「疫学」と「生物統計学」の講義・演習、ならびに「公衆衛生倫理学」を必修科目として設定している。 3. 現場の問題に発し、現場の実践に資する能力を身につけるため、理論先行の公衆衛生教育から一歩踏み出し、ケースメソッド演習やグループ討論、現場実習による実践教育に重点を置き、「調査・研究法概論」に 	<p>本研究科は、社会における人間の健康と幸福の保持・増進に寄与する高度専門職業人を養成するため、<u>多様な背景をもつ学生の経歴に応じた具体的目標を定め、グループワークやフィールドワークなどのアクティブラーニングを中心におきつつ、講義やケーススタディなどを組み合わせた体系的な教育課程を以下の考え方により編成されます。</u></p> <p>国際的な公衆衛生学教育プログラムの認定機関である米国公衆衛生教育協会 Council on Education for Public Health（以下、CEPH）において基本科目とされる「生物統計学」、「疫学」、「医療管理学」、「社会・行動科学」、「環境保健科学」を基盤として、「生物統計学」をはじめ、科目区分「疫学」の中には「臨床疫学」、「疫学実習」を別に設けます。また、「公衆衛生応用科目」の中に「健康・行動科学」、「医療政策管理学」、「環境健康科学」を置き、さらに「学際健康科学科目」において個別具体的な学修を深め、「実践課題」の履修によって完成させる、という体系的な学修体制の教育課程を編成します。これにより、従来の医学部における公衆衛生学教育では必ずしも重視されてこなかった幅広い分野に関わる教育を特徴とします。</p> <p>また、<u>修了要件単位数を CEPH</u></p>	<p>医学研究に必要な高度な倫理観と、安全管理能力を身につけることを目的とした授業を配置します。</p> <p>医学以外の学部出身者が、幅広い医学の基礎知識を身につけ、最先端の医学研究に触れることを目的として概論科目を配置します。</p> <p>専門分野における専門的知識と理解を身につけること、専門分野以外の研究に触れる機会を与え、複眼的な視野を身につけることを目的として、選択必修科目・選択科目を配置します。</p> <p>医科学・公衆衛生学の知識を、自然科学や社会科学方法論に活用可能な能力へと高めるために、<u>医科学・公衆衛生学についての研究を行い、その結果を修士論文としてまとめられるよう研究指導を行います。</u></p> <p>成績評価、学位論文の審査は厳格に行われ、その評価は、知識・技能、それらを発展・活用できる能力の習得度によって評価します。</p>	<p>公衆衛生大学院の国際基準である5分野において必修科目・選択科目を開設する体系的な教育課程とする。</p> <p>集団を対象とした健康・疾病の状況を把握・評価する手法である疫学・生物統計学に加え、保健統計、健康政策、研究方法論及び研究倫理、臨床疫学、保健行政、医療管理、国際保健や環境保健など幅広い分野の科目履修を通じ、<u>エビデンスに基づいた臨床診断・実践的臨床研究力や行政施策の提言など疾病対策のための実践的能力を修得することができる教育課程とする。</u></p>	<p>公衆衛生</p> <p>+ 地域資源を活用した研究</p> <p>+ 成果還元のためのコミュニケーション能力</p> <p><人材育成プログラム></p> <p>医療ビッグデータの活用 （計画 p34）</p> <p>医療現場や施策に還元可能な臨床研究、特に医療現場で生まれる疑問や問題意識から発するリサーチクエスチョン（研究課題に対する具体的な問いかけ）に応える研究、現実から得られるビッグデータを活用した研究結果を、医療現場や政策に還元し、最終的に「医療を変える」研究を行うことを目指す。</p> <p>一方で、現存する保健・医療・介護のビッグデータにアクセスし、問題の分析を行い、課題解決における道筋を得ることが可能な能力を習得させる。併せて、ICTを活用した最先端の取組にふれ、AIを組み込んだシステムの構築や、IoT（あらゆる「モノ」がインターネットとつながる仕組みや技術）を活用した地域参加型の事業など、今後の技術的革新を見込んだ柔軟な発想に基づいたイノベーション創出を可能とする能力の養成も行う。</p>

		<p>よりリテラシー教育を行い、各養成人材に適合する以下のような演習科目や実習科目を配置するとともに、「インターシップ」科目も設けている。さらに知識の体系化を図る、言い換えれば実践の場に還元できる能力を身に付けるために、「課題研究」を必修としている。</p> <p>4. 公衆衛生上の広範かつ多様な課題に対応するための公衆衛生専門職業人に求められる資質・能力(コンピテンシー)と問題解決力を身に付けるため、「課題研究」「リーダーシップ・マネジメント論」の科目を設けている。</p> <p>5. 海外の最新事情や最先端の知識に触れてグローバルな視点を身につけるため、5つの領域ごとの世界的権威であるハーバード大学やオックスフォード大学、ケンブリッジ大学等の教授陣による「特別講義(冬季集中)」を設けている。加えて、主にアジア諸国の提携校の学生も参加して実施される英語による講義科目(「Healthcare Management」、「Universal Health Coverage & Aging Society」)も設けている。</p>	<p>の認証基準である42単位とすることにより、CEPH 認証基準に準拠した世界水準のカリキュラムを提供する国内唯一の研究科となります。</p> <p>聖路加国際病院を中心とする実践の場を提供することにより、「臨床疫学」分野をはじめとする最先端の臨床研究や医療の質の評価・向上に係る実践を学ぶ機会が提供されることは、本学の教育課程の大きな特色です。</p> <p>教育課程の標準は2年コースですが、2年以上の実務経験を有する医師については、その実績に鑑み、効率的・効果的に公衆衛生学の知識と技術を付与する、1年コースを設置します。これは、入学時に実践課題のテーマを確認したうえで、指導教員を設定し、前期に必修科目と選択科目を履修し、後期は残りの必修科目と選択科目および実践課題のテーマに集中した履修を行うカリキュラムとします。なお、1年コースについては、職に従事したままの者については履修しないこととします。</p>			<p>疫学研究(計画 p36)</p> <p>疫学研究を実施するための基本的な分野である疫学、医療統計学、医療倫理学、健康情報学などを、実地調査・研究を含む演習・実習を通じてより実践的な形で修得できる研究を目指す。</p> <p>なお、実地調査・研究やデータの収集、分析に際しては、静岡県健康や医療に関する課題を主なテーマと位置付けるとともに、静岡県の特性を考慮した形での教育プログラムの設定などを行う。</p> <p>ゲノムコホート研究(計画 p37)</p> <p>ゲノムコホート研究に携わるためには、医学・疫学・情報学・統計学・遺伝学の知識を融合した分野横断的な幅広い知識を修得し、さらにそれらを利用した生体情報の統合解析や分析といった研究に関わる実務能力を養う研究を行う。したがって、一般的な疫学や公衆衛生学の教育に加えて、ゲノム医学分野の教育の充実、統計遺伝学、計算科学、生命情報学などの教育を行う。</p> <p>近年の急速な解析技術の進歩・発展に対応するため、最新の解析理論や方法論についても可能な限り修得させる。</p>
--	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

項目	京都大学(専門職)	帝京大学(専門職)	聖路加国際大学(専門職)	大阪大学	広島大学	静岡県
ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	<p>社会健康医学系専攻の専門職学位課程では、<u>2年以上在学し、かつ分野科目(課題研究を含む)で30単位以上修得することが学位授与の必要要件である。ただし、特別コースにおいては必須科目が別途定められている。課題研究については、配属された研究室で行い、研究のアイデアとそれに対応する研究のプロトコールの作成、データの収集と解析、結果の考察とを経験し、プレゼンテーションによる最終審査に合格することが学位授与の必要要件である。</u></p>	<p>公衆衛生学研究科専門職学位課程は、国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して専門領域ごとに指導的立場で問題解決ができる高度専門職業人の養成を目指している。</p> <p>従って、高度専門職業人養成という観点から以下のような能力を身につけ、かつ2年コースの場合は2年以上、1年コースの場合は1年以上在学し、課題研究報告書の審査に合格し、所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。</p> <p>1. <u>公衆衛生の5つのコア領域(疫学、生物統計学、社会行動科学、保健政策・医療管理学、産業環境保健学)の基本的内容を理解している。</u></p> <p>2. 環境・社会との関わりから健康事象を理解し、健康問題に包括的な視点をもって対処できる専門的知識・技術・態度を習得する。特に今日の医学・医療や人々の健康を取り巻く状況の変化を理解し、実際の現場で対処できる専門的な技術と指導力を有している。</p> <p>3. 集団を対象とした健康事象の把握手法、および因果関係推定の技法であり、<u>根拠に基づく医療(EBM: Evidence Based</u></p>	<p>新たに設置しようとする公衆衛生学研究科は、学校教育法第99条第2項および専門職大学院設置基準に規定する専門職大学院として位置づけ、社会における人間の健康と幸福の保持・増進に寄与する高度専門職業人を養成するため、数理科学・社会科学・人文科学を包括し、医療と保健、福祉の有効性・効率性・倫理性などに関する教育を行います。本研究科にて学位を授与された者は以下に述べるような能力を保持することが期待されます。</p> <p>医療・保健・福祉を取り巻く環境の変化を踏まえ、公衆衛生上の諸問題を科学的に分析・評価する能力(広い視野で医療・保健・福祉をとらえ、科学的に分析する能力)</p> <p>医療・保健・福祉の分野における国内外の諸問題をグローバルスタンダードに照らし合わせて評価・解決する能力(国際性および問題解決力)</p> <p>公衆衛生分野における高度専門職業人に必要な実践的技術・能力(疫学・生物統計学等、<u>定性的、定量的分析方法の専門知識・技能</u>)</p>	<p>医学研究に必要な高度な倫理観を身につけている。</p> <p>幅広い医学の基礎知識及び最新の医科学や公衆衛生学の知識を身につけている。</p> <p>医科学・公衆衛生学の知識を自然科学や社会科学方法論により活用できる能力を身につけている。</p>	<p>科学的根拠に基づく医療(EBM)を実施できる能力を身につけていること。</p> <p>健康増進、予防対策、治療戦略等エビデンスに基づいた疾病対策の実施や健康長寿社会構築の現実的政策提言が可能な技術と能力を身につけていること。</p> <p>研究方法及び評価において専門的な知識・技能を有し、超高齢化社会と疾病構造の変化及びグローバル化に応じた、臨床、保健、医療行政などの課題解決のための臨床研究・疫学調査研究の実践的能力を有したリサーチマインドを身につけていること。</p>	<p>公衆衛生 + 地域資源を活用した研究 + 成果還元のためのコミュニケーション能力</p> <p>公衆衛生の5つのコア領域(疫学、生物統計学、社会行動科学、保健政策・医療管理学、産業環境保健学)の基本的内容を理解している。</p> <p>医療や介護等の現場での課題を見つけ、その課題を解決するための研究計画を自ら立案し、実行できる能力を身につけている。</p> <p>研究成果を医療や介護の現場に効果的に還元できる、ヘルスコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>社会健康医学の実践活動においてリーダーシップを発揮できる能力(リーダーシップ)を身につけている。</p>

		<p><u>Medicine)に必須である疫学を修得することにより、科学的根拠に基づく医療や公衆衛生活動を実践できる専門的な技術と指導力がある。</u></p> <p>4. 予防、診断・治療、社会復帰に係わる社会的取組み、諸システムを体系的に理解し、それを公衆衛生の実践に適用できる専門的な技術と指導力を有している。</p> <p>5. 身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた人々の立場を理解したうえで、予防、診断・治療、社会復帰に係わる社会的取組み、諸システムを体系的に把握し、それを公衆衛生の実践に適用できる専門的な技術と指導力がある。</p> <p>6. 対象となる活動の場が国内外の如何を問わず、公衆衛生の課題についてグローバルな視点を備えて事象の理解ができる。</p> <p>7. 研究科で定めた専門職学位課程に必要なコンピテンシー(能力)を備えている。</p>	<p><u>公衆衛生の実践活動においてリーダーシップを発揮できる能力(リーダーシップ)</u></p>			
--	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	--	--	--